

流域の人々と歩む月刊誌

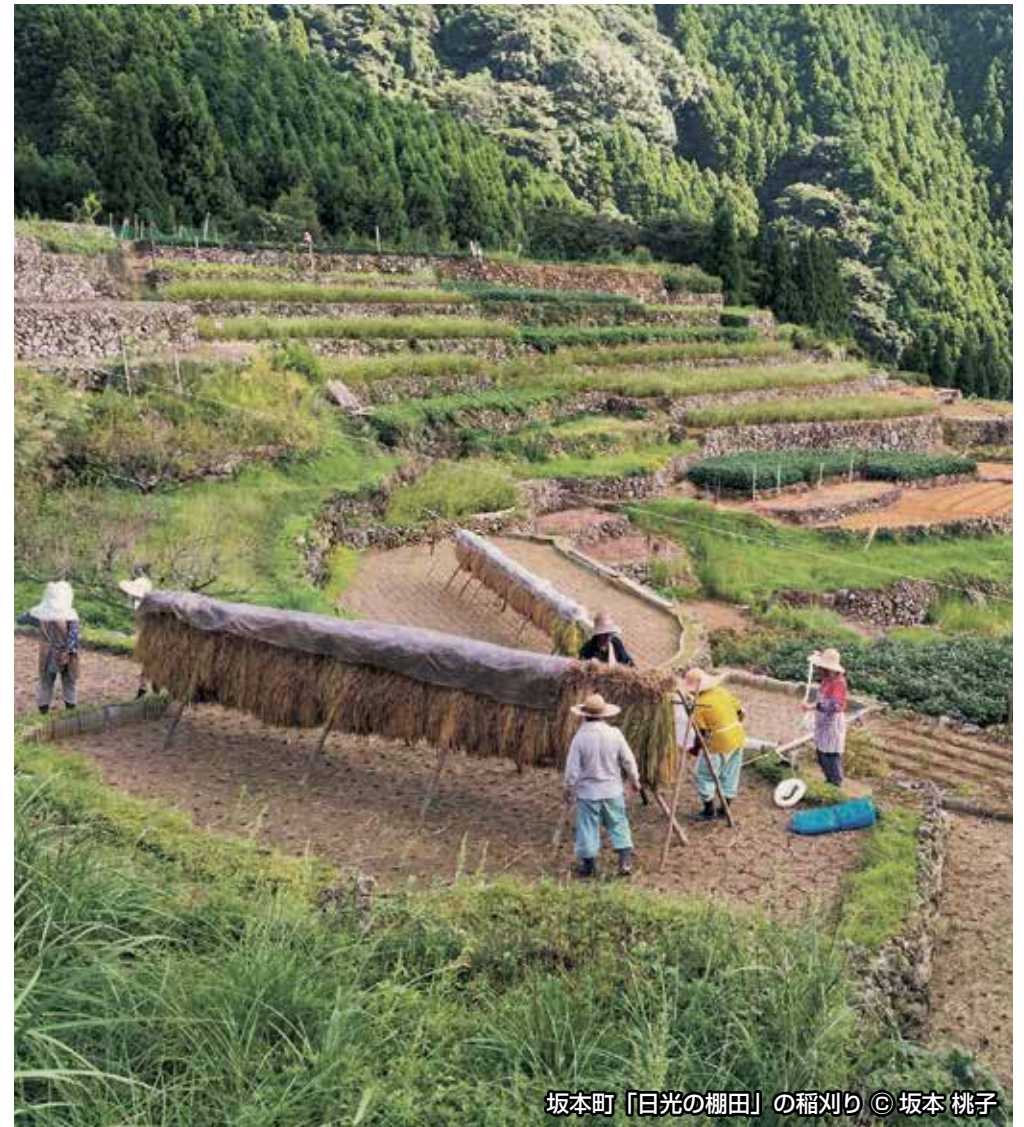
くまがわ春秋

2016

11

第8号

特集 **収穫と感謝祭**



坂本町「日光の棚田」の稲刈り © 坂本 桃子

月に願いを。

せんげつ
織月

Japanese Traditional Rice Shochu
SENGETSU



織月城（人吉城跡）にて撮影

織月酒造株式会社
SENGETSU SHUZO CO., LTD.

〒868-0052 熊本県人吉市新町一番地 TEL 0966-22-3207

飲酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁止されています。
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発達に悪影響を与えるおそれがあります。

<http://www.sengetsu.co.jp/>

雑誌 81779-11



4910817791168
00500

月刊 くまがわ春秋 第8号 2016年11月9日発行

企画：人吉流域総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田 675-3

TEL 0966-22-7601 / FAX 0966-22-7601
<http://www.hiroyoshi.co.jp/> info@hiroyoshi.co.jp

定価 540円 本体 500円

カラーページ

続報「鶴之湯旅館」営業再開／3
 絵巻に見る妙見祭／25
 ほいく・光台寺保育園／26
 旬をいただく③ 宮内祥子／27
 球磨川の駅・ものがたり 松本晋一／28

収穫と感謝祭

収穫と感謝祭／7
 豊年満作を願う年の年中行事 前田一洋／10
 おくんち祭は…良か祭り 福川義文／13
 「七五三」考 川邊敬子／17
 怖くてたのしいハロウィーン 桑原史佳／19

巻頭言／2
 ひろしのげっかん・ぎひょう／6
 記憶の落ち穂⑧ 坂本福治／9
 限界集落便り② 坂本桃子／22
 定吉が行く⑧ 鳥飼博／34
 柳人があじわう漱石俳句⑧ いわさぎ楊子／39
 くまがわすじの考古地誌③ 木崎康弘／40
 医食同源④ 浦川春加／44

春光寺をあるく 森山 学／46
 勝清とふたりの姉と 上田精一／50
 肉親ならではの勝清論／55
 球磨川石硯 亀田英雄／55
 くまがわ狂句 村上鬼拳／56
 山江村立城内小学校 松本佳久／57
 町家ギャラリー立山① 山口啓二／58
 史料発掘／61
 いもご短歌会／63
 郡築干拓の農業⑧ 磯田 毅／64
 天井裏の生活者 久馬 凌／66
 私の師匠 上杉芳野／68
 くまがわの神さん仏さん⑥ 宮原信晃／70
 山に行こうよ！③／71
 不知火海の自然・生活③ つる 詳子／72
 国勢調査の結果 城来松男／77
 楽しかったフットパス 武井京子／78
 ツクールバス／79
 一度は行ってみよう光徳寺／81
 鉄漿附岩／85
 お寺と戦争⑥ 山本隆英／88
 東京オリンピック⑧ 荻田吉富／91
 外来語から学ぶ英単語⑧ 藤原 宏／92
 鶴嶋短歌会 十月詠草／93
 流域情報／94
 ふるさと遊び図鑑⑦ 松舟博満／95

今月の詩 ⑧

人吉球磨児童生徒文詩集「やまざり」から

第34号（2006年3月発行） 選・作文の会

ぼくの家

カサカサ
 落ち葉の上を歩いていく
 なにもものかのこんせき
 足跡もある
 突然かんだかい鳴き声
 父が猫銚をかまえる
 パーンツ！
 風にまざった火薬のにおい
 なにもものかの叫び声
 しとめた

犬たちがおそろしい勢いで追いかけていく
 いきなり叫び声はやみ
 あたりは静まりかえった
 今日の獲物 三段ツノの大ジカ
 父が肉をつぎつぎとさばっていく
 これが ぼくの家のかたち
 【評】臨場感のある書き方で、猫の様子が書かれている。三連に分けてあるのも効果的だ。父親の姿を追いつながら、家のくらしを支えることの意味と偉大さを感じとっているのがうかがえる。

真理のなかにあるときにのみ、人間は自由である。そして真理は理性によってのみ、啓示される。

今月の一言 『文読む月日』（レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳）より

万江小 六年 目熊貴志

表紙
 八代市坂本町鮎歸
 「日光の棚田」の
 稲刈り

撮影 坂本桃子（八代市坂本町）





11月2日に営業を再開した鶴之湯旅館

お客さんの声

ほとんどのお客さんは、最初に同旅館から風景を楽しんだのち建物内部を探索する。他のお客さんに迷惑をかけないかぎり自由にみていいと大抵さんは語る。あるお客さんによれば



坂本町の老舗旅館「鶴之湯旅館」が11月2日に営業を再開した。宿泊設備をすすめつつの再開となったという事情もあって当日は、夕食会のみにとどまったが、14名のお客さんが土山大典さん（同旅館創設者のひ孫）の料理を堪能した。

人数が多数におよんだことからバイキング方式になったが、今後もお客が多いときに同じ時には同じ方法でもてなすするという。

続報

「鶴之湯旅館」

11月2日、営業再開

巻頭言 挽歌五木の子守唄

いつもの年より暖かい秋の日の影響で山の紅葉がずいぶん遅れている。五木、五家荘の観光にも影響が出ているようだ。先日、久しぶりに五木村を訪れてみた。村の中心地の頭地に車を駐め、手洗いや飲み物を購入し周りの風景に目をやると、頭地の町並みの高い山の頂上近くに大きな岩の姿が見えた。いつしか、ここに転じて来るのかと心配する程の大きさの岩だ。そんな山の中に私たちは居ることを実感する。

球磨川の近くの者は水害に、山間の住人は土砂崩れや孤立と、皆ハンデを抱えている。それだからといって、そこから離れようとはしない。親代々の家、暮らしがそこにあるからだ。川辺川の問題で、五木村の方々は苦渋の選択をされ他の地へ転居された方々が大勢いる。残る者、移る者も先祖代々の土地から離れ、代替え地や他の地へ向かう決断は血のにじむ決断であつたろう。そんなころ、今は無い五木村の東小学校の校庭に舞台が建ち、五木の子守歌の祭りが開催された時に一度だけ祭りの会場に行つたことがあつた。もう30年程は経つたろうか。その舞台の上には左手でマイクを持ち、右手でコップの「水」と見えたが、「生のままの球磨焼酎」を持って、五木の子守唄を歌う上村てる緒先生の姿があつた。「挽歌五木の子守唄」を書かれ五木の隅々に足を運び子守唄の歌詞集を残された方だ。

先生はいつも同じ口調で言葉を発せられた。「よかや、いつも、おまや弱かもん、辛かもんのことば気かけろ。川の水のように悲しみや苦しみは、上から下へ上流から下流へ流れてくる。一番下には、弱いもんがおつとたい。その者のことば忘れちゃならんとぞ」。今も「五木の子守唄」が聞こえると自問自答する。弱い者のことを考えているのか。辛い者たちのために何か行動を起こしているのだろうか。

（編集部）



61 年前の時計は今でも動く。30 分ごとに大きな音を刻む

いど訪問し人もいるほどであった。料理のおもてなしに専念しつつも、大典さんと話すのを楽しみにしている人が多い。こんごの補修を手伝いとの声も多数よせられている。しかし、おそらくは大典さんは、最後まで、お父さんの英憲さんと二人で旅館を元の姿に戻していくであろう。そういうところも大典さんの魅力でもある。

今後について

急にお客さんが増えたら十分におもてなしがで



本誌の執筆者の坂本桃子さんも食事会に参加した

きないので、少数のお客さまの受け入れをしばらくはつづけたいとのことであった。



開業再開の和食メニュー。大典さんが得意にする韓国料理などお客さんの要望に応じてメニューは変えてくれる

旅館の建物もそうだが、大典

大典さんの魅力

ちで、国道からいつもながめていました。そういう旅館でしたので夢がかなうつて、こんな感じなんだつてと不思議な気持ちになった」と話した。「補修しなければならぬ箇所もあるようですけど、圧倒的な存在感のある昭和のかおりのする建物です」と話す人もいた。「温かい雰囲気ながれていて、やさしく受けいられてくれる お家 のようでした」という声もあった。



接待する大典さん

さんの魅力に惹かれる人も多い。開業前に、取材をかねて6名で大典さんの料理を楽しんだのだが、直ぐに打ち解け深夜まで楽しくすごした。翌日にさ



暖房は火鉢だけ。想像以上に暖かい。半袖のシャツになってもいいほどになる。その火鉢に「タカンボ」(竹の筒)を刺しそれに焼酎を入れて、大典さんはもてなしてくれた

最近のおもな出来事

- 10月15日(土)
 - ▽第29回やつしゝ全国花火競技大会(八代市球磨川河川緑地)
- 10月16日(日)
 - ▽第5回とておきの音楽祭inひとよし(人吉市内中心部)
 - ▽第16回人吉ふれあい百田商店街(人吉市内中心部)
 - ▽織月カッパエス大会ダブルス(人吉市村山公園エスコート)
 - ▽あさぎり町福祉まつり(須恵文化ホール)
 - ▽第6回勝地利まつり(球磨村勝地果実共同組合選果場)
- 10月18日(火)
 - ▽田んぼの学校inひとよし(人吉市帯)
- 10月21日(金)
 - ▽球磨人吉中体連駅伝大会(あさぎり中SG)
- 10月22日(土)
 - ▽秋季特別展覧会「写真家麦島勝の世界」(12月4日、八代市立博物館未来の森ミュージアム)
 - ▽えひすふれあい祭り(多良木町恵比寿神社境内)
- 10月23日(日)
 - ▽第63回人吉球磨総合美展(27日、人吉市スポーツパレス)
 - ▽誕生60周年記念第1回さくら産業文化祭(23日、相良村総合運動公園周辺)
- 10月25日(火)
 - ▽球磨百貨店(23日、球磨商高)
 - ▽第37回ふれあいまつりくまのり(23日、球磨村総合運動公園)
- 10月29日(土)
 - ▽五家荘紅葉祭(11月20日、八代市泉町五家荘帯)
- 10月30日(日)
 - ▽第39回錦町ふれあいまつり(30日、錦町民グラウンド)
- ▽日本遺産巡りエンジンサイクリングinひとよし球磨

特集

収穫と感謝祭



サツマイモの収穫体験をする「田んぼの学校 in ひとよし」の参加者

収穫や農業機械の乗車を体験

田んぼの学校inひとよし

子どもたちが遊びや体験を通して水・農・食の大切さを学ぶ「田んぼの学校inひとよし」が10月16日、人吉市内で開かれ、県内から参加した親子連れが土地改良施設を見学し、サツマイモの収穫

猛暑の夏が過ぎ、流域にも実りの秋が来た。今月号は収穫と感謝祭と銘打って、最近の話題をレポートするほか、古来からの風習にも目を向けてみた。まずは、収穫体験の話題から。

や農業機械の乗車を体験した。

主催は、郡市の10土地改良区で構成する人吉球磨地域土地改良区連絡協議会(会長・尾方幸治 錦町土改区理事長)で、郡市をはじめ熊本市や菊池市から親子78人が参加した。本誌など後援。青井阿蘇神社で開会式が行われたあと、JR人吉駅から観光列車「いさぶろう」号で大畑駅に向かい、人吉市梅園で記念標柱を



— 世界に激震走る TPPに反対のトランプ氏勝利 —

「マスコミはクリントン氏優勢と報道。その予想がはずれ、トランプ氏当選に多くの人々が驚く。アメリカの格差社会や中間層の不満が変化を求めた結果だが、日本もさほど変わらないとの声も。」

ひろこの…
げっかん・ぎびょう

記憶の落穂

その ⑧

絵と文／坂本福治



三笠宮様との接点

三笠宮様が亡くなられた。皇族最長寿で百歳！
ご不幸のことながら「お見事」と申し上げたくなる。
実は、この私とも接点があった。私は二十五、六歳の頃、お茶の水駅に近い湯島聖堂で仕事をしていた。ここには、「子曰く」の孔子が祀られており、中国文化の盛んな所である。何種かの講座のほか、中国料理もやっていた。この料理は評判が良く、多くの高名な人々に愛されていた。三笠宮様もその中のお一人であった。ご自宅で何かされる時は、鍋釜材料を車に積み、料理人を乗せて私が運転したこともあった。洒落た構えのお住まいだった。聖堂内で会食される時は、女性職員が料理代を受け取るのが常だったが、何故かある時、私がその席にいた。そこへ三笠宮様が支払いに来られた。私はとくに最敬礼もせず、普通のお客と同じように対応した。学者風ながら、人当たりのやさしい雰囲気、三笠宮様が、ついさっきのことのように、目の前に見えている。髪の毛が印象強い。右の料理店は今はない。合点

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】



農業機械乗車を体験する子どもたち

また初めて
目にするト
ラクターや
コンバイン
などの運転
を指導して
もらい緊張
気味ながら
も楽しんだ。

建立。その後、東漆田町の鳩胸川にあるひとよし土改区の鳩胸頭首工を見学し、川から取水し周辺の水田を潤す仕組みを学んだ。
午後は、上原田町の畑に移動し、サツマイモ掘り、トウモロコシの収穫、農業機械乗車を体験。改良区のスタッフが6月に植え付けたというサツマイモの収穫体験では、引っ張つてもなかなか抜けず悲鳴を上げる子どもも。

花に囲まれ歌や演奏

人吉市 ひまわり農園

人吉市のひまわり保育園（松本美恵子園長）が運営する東間下町にある「ひまわり農園」で11月2日、周辺の住民や保護者を招いてのミニコンサートがあり、子どもたちの歌声やゲストによる演奏でさわやかなメロディーを響かせた。

農園は同保育園が田植えや稲刈りなどの農業体験をするために利用して



ミニコンサートで元気に合唱する園児たち

宇城市から家族3人で参加した甲斐さん一家は地震で自宅が一部損壊の被害を受けており、気分転換に参加したという。娘の甲斐泉妃さん（9歳）は「イモ掘りはきつかったけど、楽しかった」と話していた。

いる田んぼで、今年はその一角にヒマワリやコスモスを植えた。この日は、花の披露を兼ねてのコンサートで、あいだこども園の園児やゲストによるフルートやヴァイオリン、オカリナの演奏も花を添えた。

さざ波や大波のように 豊年満作を願っての年中行事

郷土史家 前田一洋

嬉しさがずびやー（いっぴい）詰まった球磨弁の二つに、「で秋」という語がある。



のどこ（苗代）作りから田植え、そして暑いさなかの草取りや虫の駆除。さらには水の見回りからヒエ抜きなど、まさに「八十八」もの手を加えようやく迎えた収穫期、農民にとって何物にも換え難い喜びの時であった。

二千年前の弥生時代から、いやその前の縄文時代から始まったとされるわが

国の稲作、現在に至って日本人の主食は米である。先人たちの努力で品種改良もなされ、作業も極限状態にまで機械化されてはきた。しかし、やはり自然が「味方」をしてくれない事には、到底「豊年満作」はおぼつかないのである。

そして、この自然こそが日本人にとっては「神」そのものであったのだ。そのために、この地方でも旧暦一月十五日の「小正月」には、苗代にする田に松やユズリ葉を立て「田の神さん」を迎え、また田植えの時に大勢のやてーど（加勢の人）があるようにと「しゅんなめじよ」を作り、種モミを入れた俵に、たくさんの人形を立てて祭ったのであった。

いよいよ田植えの時期が近付いてくると、山の神さんから水を分けてもらわねばならない。そこで、例えば錦町の一武あたりでは、「水もりや」に出掛けていた。白髪岳の温

迫をさらに南へ行くと、お拘留^{くわう}孫神社^{そん}があつて、その一角に潮の干満と同じような満ち引きをする小池がある。その水を頂いてきて、みなくちなどに注ぐのであった。

猫の手も借りたい忙しさの田植えもようやく終わると、田の神様「サ」には、本来の住み家である山へと帰って頂くことになる。それが「さなぼり」で、

ついでに人々もその労をねぎらつて、ホネ休めをしたのであった。

ちなみに、この時期に使われる「サ」の付く用語をいくつかあげてみよう。田植えの時である「さつき」、そのころ降る雨が「さみ

だれ」、「さなえ」を植える「さおとめ」。「さなぼり」で頂くのが「さけ」という具合に、みんな神のご加護を願った言葉である。

稲が順調に育つためには、水こそが必要不可欠である。それなのに日照りが続くとなると一大事、そこで「雨乞い」の神事となる。雨の神様は「あまみや」さんとか、「あまふくだけ」などのように、やはり高い所にいらつしやるのだ。そこでカヤ牛を作ったり、臼太鼓踊りを仕立てて祈願をするのであった。またウンカだとかメイ虫が付いたり、病気が入ったりしないように「虫追い」の行事も。

雨も程よく降り、稲の生育も至つて順調。神様たち、どうぞこれからお見守り下さいと、お堂などにお籠もりをするのが「六月どう（籠）」、いわゆる夏祭りである。こうした豊作を願ひ夢見てのお祭りを予祝という。

このように農村の祭りは、ささやかながらも至つて地道に行なわれてきたのであった。そしてその小さな祭りのほとんどが、仕事が一段落したような時に「かてやり（結い）」の単位である隣近所が集まり、祝つてきた。

そうした小さい集まりの、さらなる集合体が「村」であ



小正月の「シュンナメジヨ」。種モミを入れたカマゲに多くの人形を立て多くの加勢人と豊作を願った



獅子面と神輿 (昭和 37 年)

「ニコニコ笑顔」 おくんち祭はいつの時代も良か祭り

青井阿蘇神社宮司 福川義文

第二話・獅子面のつづやき

おくんち祭の獅子面^{ししめん}になつとにやな、正月の初詣^{はつしげ}で行った時、社務所に置いてある帳面^{ちやうめん}に住所と名前ば書いて申し込むことから始まつとぼつてん、それから先が大変たい。十月五日の獅子面奉仕者抽選式^{ししめんほうしやくせんしき}まで、二百八十日ばかりがなんさま長かもんな。獅子面は八頭^{やつかう}あるばつてん、良か^{よか}とに当ろうごたつて、悪か事どまけんでな。毎日毎日おしよもんしとらんばならんたいな。

いよいよ十月五日の朝ば迎えれば、抽選式の始まる前に楼門前の石段に道づくりばせんばもんな。お神輿^{みこし}さんやら神馬^{しんめ}やらが石段ば安全に昇り降り出来つごと、土のうば積んで坂道にしてやつとたいな。抽選式ばひかえて神さんの前でする仕事じやろがな、みんながまだです。遊うどつとやら、てれつーとしとつとどまおらんでな。何年前やつたか、後の抽選式^{あとのしせんしき}で「番獅子 青 飛出^{とひだち}」つて、自分の名前が一番に呼ばれた時にゃー、心ん中で「よっしゃー」って叫んだといつて

り、鎮守の神様の氏子である。そして、いわゆる「だけ秋」には村をあげてのお祭りとなるのが、青井さんや天神さん、老神さんや岩屋さんなどの秋の祭り。まさに収穫を祝つての最大の祭礼であり、また最高の娯楽の時でもあつたのだ。つまり、さざ波のように小さな祭りが集まつて、多くの苦勞が見事に捻つただけ秋の大祭となつたのだ。その喜びと楽しみを、見事に歌つた唱歌が明治四十五年にできたあの『村祭り』。一つ思い出しながら歌つてみよう。

- 一、村の鎮守の神様の今日はめでたいお祭り日
どんどんひやららどんどんひやらら (繰り返し)
朝から聞こえる笛太鼓。
- 二、今年も豊年満作で村は総出の大祭り
どんどんひやららどんどんひやらら (同)
夜まで賑やう宮の森
- 三、治まる御代に神様の恵み仰ぐや村祭り
どんどんひやららどんどんひやらら (同)
聞いても心が勇みたつ



絵／上中万五郎

神様も普段は社殿の奥深く鎮座ましましていらつしやるが、この時ばかりは、お神輿に乗り多くの行列を従えて、お旅所まで遠出。その道中で、氏子たちの暮らしぶりをじっくりとご覧遊ばしますのである。古来、この地の神様はあんまり喧騒な行列は好まれず、至つて静かな「お旅」を楽しまれてきたようだ。さすがに山紫水明の神様たちではある。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

んに体ん震えて、〇玉のちぢこまるご
たっ感じじやったばい。

九日の行列の日は朝早うから青井
さんに出てくつたいな。神楽殿で衣装
ば着て、白足袋にお神酒で清めたワ
ラジは履いてから獅子面ばかぶるもん
な。賽銭箱のこの階段は一気呵成
に飛び跳ねて出て行くとが、本な「飛
出」たい。おいどんが若つか頃、爺さ
んたちのそぎや言いよいやつたで。青
井さんの獅子面にや、その他にも「走
り」「すり足」「構え」「がぶり」「噛み」
：ちゆうごと独特の技の伝わつた
いな。恐ろしかごとやら、カッコ良か
ごととして見せんばんとじやつで。た
だかぶつとつばかいじゃー、わからん
たいな。

発聲祭の済めば、「待ってました」
て言わんばかり、いよいよ出番たい

な。いぎ道ん出ればな、「どん子ば
泣かすつかな」「若つか良か女ん子
おらんどかな」て、獅子面の中から
まずはあたりば覗ごうて見つたいな。
「おつたー」と思うといつぱんに駆け
出しとつばい。たいぎやにや恐ろしかつ
じやろな、子どもたちやー泣きわめい
ていちもくさんに逃ぐつで。だいたい
婆さんの後に隠るつが多かな。婆さ
んな孫がもぞかもんじやつで、あわて
て前に立ちふさがいやつで。たまにや
「なんばすつとか」て、鬼んごと恐ろ
しか形相で叩かれて獅子面の方が負
くることもあつとばい。

そばつてん、たいぎやん者な、青井
さんの獅子面に噛まれるれば「病気せん」
「長生きする」「頭の良うなる」ちゅ
うて、すすんで頭ば出しやるばい。そ
いもみんなニコニコ笑顔でたいな。中

にやー「元気で長生きしないよー」つ
て獅子面の中から声かけてやれば、
喜うで拝みやる年寄りもおらすたい
な。

昔、まだおいどんが若つか頃は「飛
込」ちゆうともあひよつたとばい。街
中の旧家やら旅館にそいこそ「飛び
込む」とたいな。獅子面の人って来れ
ば家内安全、商売繁盛ちゆうて、あ
りがたがれて、飲めや食えやの豪勢
な接待じやつたとばい。獅子面の交替
場所待つとれば、いつまでん来ん
とやら、えくろうてフラフラで来つと
やらで、今じゃ考えられんぐたつこつ
もあつたとばい。獅子面かぶつてもう
五十年近うなるばつてん、やつぱ「お
くんち祭」は良かなー。人のニコニコ
笑顔に触るつとがほんに素晴らしか。
こいが六十過ぎてんやめられんこつ

たいな。

あんたも来年どま、いつぱん獅子
面かぶつてみらんな。そーら楽しかば
い。見とつばつかいよか、たいぎやにや
おもしろかばい。そしてたぶんはまつて
しまうばい。

どぎやな、来年の初詣でにや連れだつ
て青井さん参りに行たてみらんな。

第二話・馬与の男のつぐやき

今から五十年ばかり前の話になつ
ばつてんな。おくんち祭で神さんの乗
いやる馬ば神馬ちゆうもんな。こん神
馬にやー、祭りの一年前の十一月に生
まれた栗毛の仔馬二頭が選ばれよつ

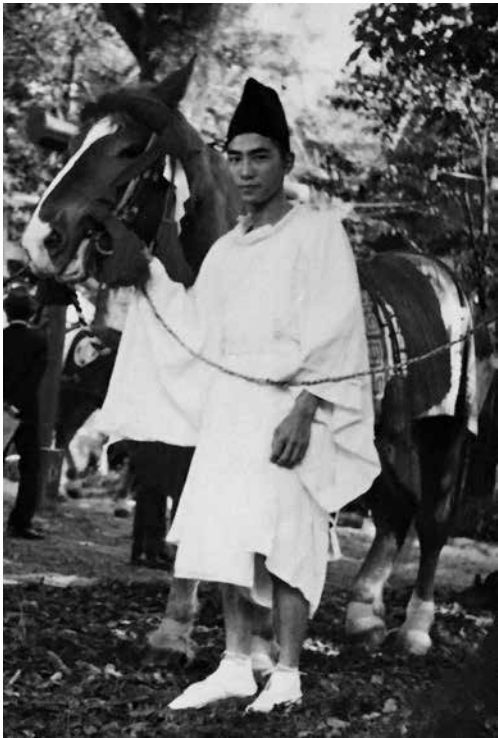
たもんな。

祭りの二十
日ばかり前
ごろから馬
小屋にや古
畳ば敷いて
世話ばして
特に十月の
三日から八
日まではケ
ガさせんご

と夜通し交替で番はしとつたたいな。
ピリピリすつと神経使いよつたとば
い。

前日の八日の朝にや川ん連れて行つ
て体ば洗ろてやり、祭り当日の朝にや
お湯で洗い清めて、タテガミやらシツ
ポにやピンカズラばタカンポで搗いて
作つたビンジュールば塗りくうで、櫛で
綺麗にさばいてやり、シツポん根元にや
晒しば巻いて、準備ば整えよつたたい
な。

当日の朝は七時ごろにや家ば出るも
んな。青井さんに着けば馬と一緒神
さんば拜んでから飾り付けばしよつた
たいな。ワラジまで履かせよつたとば
い。馬は二頭の神馬、他にも巡査さ
んの乗いやる道開馬、神主さんたち
の乗いやる乗馬で二十頭以上が出よつ
たたいな。そんな頃の馬は中原地区方



面からが多かったな。馬^{うま}与^{くみ}と呼ばれよったばい。他にもお神輿^{みこし}は鍛冶屋町や大工町、奴^{やつ}は願成寺町、旗持ちは矢黒町、お供の供奉者^{ぐふしや}は大塚町や田野町、獅子面は薩摩瀬町、散米行事は山江村ちゅうごと分担しとったぐたんな。

そんな頃のおくんち祭に馬ば奉納しゅうぐたる者な、今ん獅子面奉仕者のごと抽選に当たらんば出されんじやったたいな。奉納したか者の多か時にや抽選にハズして出されん者もおったたいな。当選のハガキの青井さんから届けばもうそら家中大騒ぎたいな。まず神棚とご先祖さんに報告して、村中に触れ回ってお祝いたい。焼酎^{さかな}の肴は豆腐と身クジラの刺身じやったばい。

そうそう、おくんち祭の前日

にや、お旅所の中川原^{なつじょうら}に行たて、木陰^{きかげ}涼しかとこいば探してムシロば一枚敷いて、〇〇家神馬て書いた紙まて貼つて陣取りしよったたいな。昼に出す赤飯やゴマ塩のおにぎりやら、にしめ、つぼん汁は家の者がリヤカーで運びよったな。親戚からもご馳走が差し入れられて大勢で賑わいよったばい。

「あらー、よう来ないたな」

『はい。稲刈りも無事済んで、くんち日和もゆうぐざんもしたで、祭りみゃーりに家族みんな連れ立って出て来もした』

『あ、そうそう。今年しや、神さんの馬ば出しとんないた。良か馬じやつたなー』

「有難うぐざんもす。本に名誉なことでしたばい」

「昼めしやーまだじやろ。まあ、何も無かですばってん食てくだはんもし」

『ご馳走になりもす』

『こら、ちいっとばってん差し入れ持つて来もした』

「おどましらん。気い使うてもろてー。有難うぐざんもす」

『・・・』

「・・・」

「コラッ。子どもどまいつまで食うとつとか。早うサーカスどん見ぎやー行たてけ」

会話ははずーだ。ほんに楽しか良か祭りじやつたー。昨日の事んご思いうすばい。

【ふくかわ・よしふみ／人吉市】

「七五三」考

川邊 敬子

秋空の下、千歳飴を手にして神社にお参りされているご家族の姿を見かけると、よそのおばちゃんわたしまで、なんだか心が浮き立つような誇らしいような気持ちになります。

七五三については、すでに詳しくご存知の方もいらつしやると思いますが、この原稿を書くにあたって、その起源等を調べてみました。

七五三の起源は室町時代といわれ江戸時代の武家社会を中心に関東から全国へ広まったとされています。当時は乳幼児の死亡率が高かった

ため、生後3〜4年経ってから現在の戸籍にあたる人別帳や氏子台帳に登録したそうです。

そのような背景から、七五三のお祝いには今まで無事に成長したことへの感謝と、幼児から少年・少女期への節目にこれからの将来と長寿を願う意味が込められたのでしよう。

元々は「髪置^{かみおき}」3歳男女^{はかまぎ}「袴着^{はかまぎ}」5歳男児^{おびとぎ}「帯解^{おびとぎ}」7歳女児^{おびとぎ}とそれぞれの意味を持ちお祝いするしきたりでしたが現在では、しきたりには拘らない家庭も増えているようで、お祝いの仕方地方によつて様々あるようです。

我が家の娘家族が、上の孫娘7歳と二番目の孫娘3歳のお祝いを一緒にした際も、二人とも大正ロマン風の着物姿とアニメに出てきそうなプリンセ



江戸時代の七五三（『七五三祝ひの図』、三代歌川豊国 画）

スタイルで写真に収まっていて、しきたりに順じた装いではないのですが、家族の表情はなんとも嬉しそうで、孫娘達は得意げな満面の笑みを浮かべています。

写真からもその時の幸せな家族の気持ち伝わってくるのか、四ヶ月になる末の孫娘は姉ちゃん達の七五三の家族写真を目にとると、なんとも嬉しそうにニコニコし始めます。

幸いなことに孫達にも娘にも、そして私にも七五三の時の写真が残っていますが、様々な事情で記録を残すことが出来なかったり、晴れ着を着る機会がなかったにしても、その年齢まで育ったことに心から感謝し、これからの成長と幸せを願う気持ちが家族や周囲の人達にあれば、その気持ちは主役の心に沁み込んで、その後の成

長の糧になるのではないのでしょうか。

11月15日という日にちにしても、1681年に徳川綱吉將軍の子・徳松の成長のお祝いを行なったのが11月15日で、それが江戸を中心に定着したという説、11月の満月の日に行なう習慣の氏神様への収穫の感謝の祭りと兼ねて祝ったという説、中国から伝えられた二十八宿という暦では11月15日は「鬼宿日」という日にあたり、婚礼以外のすべての物事をする日として最良の日とされていたからという説。はたまた、七五三をすべて足した数が15になるからという説など諸説あるようですが、現代ではあまりその日にこだわらず、それぞれの家庭の都合に合わせてお祝いをする事が多くなっているようです。

大切なのは、子どもの成長に感謝

し幸せを願うその気持ちで、わたしが七五三を祝ってもらった年代だった頃は、隣近所のおじちゃんおばちゃん達からもそういう気持ちで見守ってもらっていた気がします。

冒頭に記したように、よそのご家族の姿を見ても誇らしいような気持ちになれるのは、自分がそういう眼差しの中で成長出来たおかげなのかもしれない。

形式は時代と共に変わっても、家族だけでなく地域の人たちが子ども達の成長を祝う温かい眼差しは、無形の伝統として受け継がれていって欲しいものです。

【かわなべ・けいこ／人吉市】

怖くてたのしい ハロウィーン 桑原史佳



今年もハロウィーンの時期には、仮装を楽しむ人達の年々盛り上がっている様子やグッズの紹介のニュースが流れ、球磨人吉でも夏の終わりあた

りから、お店にハロウィーン関連の商品が並んでいました。私が球磨に帰ってきた30年前は、この地域では「ハロウィーン」はあまり知られていませんでしたので、私の英語教室では、手作りのグッズや仮装で子どもたちと楽しんでいました。

保育園での多様な活動の体験のひとつ

つとして、ハロウィーンパーティーを行なったところ、子どもたちは大喜び。職員もそのおもしろさに夢中になり、それから26年間、保育園の恒例行事となっていました。

西洋のハロウィーンは、子どもたちがオバケの格好をして、「トリック オア トリート」といいながら近所の家々を回り、お菓子をもらいます。お菓子をくれないおうちにはいたずらをしていいそうです。今はそんなことをしたら、社会問題になりそうですが…。ハロウィーンを知らない地域でこのお祭りは通用しません。そこで考えたのが、保育士たちがオバケに変身して園内に潜み、子どもたちは仮装してオバケを見つける。見つけたら、「トリック オア トリート」

と言う。上手に言えたらお菓子をもらうという方法です。

秋の運動会が終わったら、ハロウィーンの準備を始めます。カボチャのおばけ「ジャックランタン」も本物が楽しいかなと、オレンジ色のカボチャを農家の人から譲っていただき、子どもたちと作り始めました。今年は保護者のおばあちゃんから、ひょうたん型のカボチャを7個いただきました。

保育園で去年のカボチャの種からひょうたん型のかぼちゃを二つ収穫したので、見本を作りました。それを見て子どもたちは大喜びでカボチャの中をスプーンで削り、顔を描き、すてきな表情のランタンを完成しました。



衣装は家庭から持ってきた親の古着、紙袋や包装紙などを使って魔女、猫、フランケンシュタイン、大好きなアニメキャラクターなどに変身します。職員は持ち前の豊かな想像力を発揮して、毎年オドロキのおバケに変身します。今年は、魔女、白雪姫、スパイダーマン、不思議の国のトランプの兵隊、ガイコツなど、子どもたちに馴染みのあるおバケ(?)に仮装して潜みます。メイクにも熱が入り、迫力があります。園内はハロウィーンムードの装飾になり、手作り感あふれるハロウィーンの目を迎えます。

ハロウィーンの給食メニューはカボチャを使った料理で、今年はパンプキンシチューがメインでした。午後のおやつは、職員手描きのハロウィーンみ

たら、お楽しみが待っています。

化けた悪魔を棒でたたいて追い払う縁起のいくす玉割りのあそびとして、南米の子どもたちの誕生会やイベントなどで行われる「ピニャータ」という行事を保育園のハロウィーンに取り入れています。空中を舞うキャンディーが詰まったオバケを棒で叩き割り、中から飛び散ったキャンディーをいっせいに拾い集めます。バッグいっぱいになったキャンディーは、みんなで分け合い、おうちへのおみやげになります。

子どもたちはハロウィーンパーティーは「こわかったけど、おもしろかった」と。夕方、再び仮装をして帰り、おうちでもハロウィーンが始まるようです。

かんです。

パーティー開始前は、保育園全体が大忙しです。子どもたち、職員全員、もちろん園長先生も給食の先生も、取材に来てくださった方たちもおバケに変身します。ALT(英語指導助手)や保護者が仮装して、参加されることもあります。今年はいにくの雨模様でしたので、おバケたちは場所変更で大変でした。

キャンディーやお菓子を配るおバケたちは最初はきれいな顔ですが、汗だくになりメイクが崩れても一人一人の子どもたちに声をかけ、演技続けています。怖いながらもキャンディー欲しさに、子どもたちはおバケとお話をします。

全てのお菓子スポットを巡り終わつ

子どもたちには、よいこになりますようにという願いを込めて、怖くてたのしいお祭りであればと願っています。

内緒ですが、職員のすごいメイクアップと仮装に、子どもたちは泣いたり怖がりしたりしていますが、その場を離れた後、お友だちと「〇〇先生、こわかったね」と、結構冷静に感想を言っているのを聞いてしまいました。ハッピーハロウィーン、また来年！

【くわはら・ふみか／福島保育園
主任保育士、球磨郡錦町】



限界集落便り②

わたしの収穫祭

坂本 桃子

坂本に秋がやってきました。

私の住む限界集落にもそれはやってきました。かぼちゃに芋、栗にしょうが、柿にむかごに銀杏。実りの季節。毎晩運転中に会える野生のムジナたちも、見るたびにぶくぶく太る。そんな私もぶくぶく太る。



私が初めて漬けた梅酒

ん。年間を通して毎日が収穫祭のような、この集落のどこに「限界」があるのかと、やっぱり考えてしま

世間一般的な「限界集落」の定義

に一応あてはまってしまふ、この集落に住み始め、はや1年4カ月。相変わらず、採れたての食材を届けてくれる、近所のじいちゃんばあちゃんたち。それは秋であろうが、春であろうが、この集落では関係ありません。

ます。

そんな私も、今年は27年生きてきて、初めて梅酒を漬けました。

実家の目の前に梅の木があつて、昔は祖父がよく梅を漬けていたけど、80歳を超え、高齢になった今はそれもやめてしまいました。

それなら私が梅仕事をしてみよう！と、図書館で借りた本とインターネットをたよりに人生初の梅仕事。

6月の田植えを終えた頃に漬けたので、秋を迎え、ようやく飲みごろとなりました。どきどきしながら人

生初の自家製梅酒をぐつと一口。私にとつての収穫祭。お酒が大好きな私は、今まで梅酒も買うことが多かったのですが、これからは買うのがばかばかしく思えそうです。

こうやって、あるもので、自然の力

を借りながら、欲しいものを自分の手でつくる。それがこの集落の生き方の基本でもあります。私も今年は集落の師匠たちに一歩近づけたのかなと思います。

話は変わって、坂本町の鮎婦という地域にある日光集落^{にちこう}には、日本の棚田百選にも選ばれている何とも美しい「日光の棚田」があります。

現在は半分以上が休耕田となっており、数年前になんとか棚田を復活させようと、集落の全世帯から構成される「日光の棚

田活性化会」が発足しました。私は仕事柄この棚田へ足を運ぶことも多いのですが、そのうちに地主であるMさんと出会い、顔を覚えていただきました。Mさんはこの日光集落のことや棚田での米作りのことなど、いつもたくさんのことをお話してくださいます。

そのお話の中で、日光集落もやはり数字的には「限界集落」であり、それによつて棚田の米作りを継承する人間もいなくなつてしまったということを知りました。

今年6月の田植えの際、Mさんは言いました。

「残念ですが、私の代で終わります。ご先祖さまには申し訳ないけど」と。

私はその言葉を聞いて、返す言葉

日光の棚田（坂本町鮎婦）

祝・妙見祭ユネスコ登録勧告

絵巻に見る妙見祭

10月31日、「妙見祭」を含む33件の山・鉾・屋台行事をユネスコ無形文化遺産に登録しよう勧告があった。正式な登録は11月28日からエチオピアで開催されるユネスコ政府間委員会にて決定される見通し。

弘化三年（1846）の「妙見宮大祭絵巻」（松井家所蔵）より



がみつかりませんでした。数年前に集落全体で、またこの棚田を続けていうーと活性会を立ち上げたけれども、結局集落にいたるのは70代80代を中心とした高齢者で、米作りをしているのも高齢者のみ。Mさんはやはり限界を感じていました。

そして田植えから4か月近く過ぎ、日光の棚田も収穫の時。稲刈りを迎えました。当日は私もお声かけいただき、稲刈りの様子を見学させてもらいました。

今年は大きな台風もなく良い環境の中で育ったので、稲はとても美しく、お米も良い出来だとMさんはご機嫌そうでした。刈った稲は掛け干しをされ、11月には新米として食べることができるそうです。

先祖代々、受け継がれてきた日光



の棚田の米作り。Mさんも、また今年も稲刈りを無事に終え、きつと特別な想いに溢れていることと思います。それは棚田での米作りに限った話ではありませんが、私は「受け継ぐ」ということの大きな意味を日光の棚田へ通いはじめて、感じるようになりました。

した。

少し話がそれましたが、坂本町では11月の第二日曜日に、ムラ全体の秋のお祭りとして「ふるさとまつり」が開催されています。今年で30回目。最近では、町内8つの地域振興会がそれぞれで開発したオリジナルの「ぼたもち」が好評で、毎年、多くの人が買ってゆかれます。なんだか「ぼたもちまつり」に名称を変えた方がいいのではないかと思うほどです。

坂本の「ぼたもち」については、語りだすと長くなってしまいますので、それは別の機会に。

みなさま、ぜひ、足を運んでいただき、秋の坂本を楽しんでください。

【さかもと・ももこ。八代市坂本町】

アユのレシピ2品

料理・菓子・ワイン・チーズ研究家
宮内 祥子

①アユのコンフィ サラダ



材料（4人分）

コンフィ

- ・アユ 4～6尾
- ・米油 アユがかぶる程度
- ・塩 適量
- ・タイム 2～3本
- ・ローリエ 1枚

付け合わせ

- ・うるか 市販
- ・大葉ソース 適量
- ・サラダ 適量

作り方

- ① アユに塩を振り、30分程置く
- ② ①のアユの余分な水分を拭き取り、パイレックスやホーロー鍋かバットなどに並べて米油、タイム、ローリエと一緒に鍋に入れる
- ③ 80度のオーブンで6時間程度加熱する。低温のオーブンがない場合は、直火にかけられる鍋に入れて蓋をし、ごく弱火でゆっくりと加熱する
- ④ コンフィにしたアユをフライパンで両面、こんがり焼く
- ⑤ 皿に大葉ソース、ウルカ、大葉ソース、サラダを添える

②アユのコンフィを使ったりエット



材料

リエット

- ・アユのコンフィ又はアユの塩焼き 200g（2尾程度）
- ・生クリーム 100ml
- ・クリームチーズ 50g
- ・無塩バター 50g（ポマード状）

仕上げ

- ・かぼちゃ入りサラダ
- ・パン
- ・オリーブオイル
- ・ローズペッパー
- ・黒胡椒

作り方

- ① アユの塩焼きかコンフィ、どちらでも頭から尾、内臓も丸ごとミキサーに入れる
- ② ①にポマード状のバター、生クリーム、クリームチーズを加えて、よく混ぜ合わせる
- ③ ②を冷蔵庫でよく冷やし、冷えてクリーム状になったら、スプーンですくって、パンに載せる
- ④ サラダを添えて出来上がり



アユのリエットはアユの内臓も入っているので、ややほろ苦く、大人の味。苦味が強い場合はバターを多めに加える。いずれもワイン、日本酒とよく合う。

【みやうち・しょうこ。Jasmin's kitchen & 魚食倶楽部代表、著書に「もっと知りたいチーズの本」「チーズを識る」世界文化社、「世界のチーズ」NHKなど。東京都】



今年人吉市に設置された「鮎のやな場」

シリーズ ほいくのなかで描いた絵 ⑧

光台寺保育園（球磨郡多良木町）



光台寺保育園は多良木町の西に位置し、周りを田んぼに囲まれた自然豊かな環境の中にあります。近くに消防署、県立支援学校、警察署、公立病院があり、いつも地域の方々の温かいまなざしに見守られています。消防署グラウンドを走り回り、土手をすべり、畦道を歩くことで遊びながら体幹が鍛えられます。子ども一人ひとりが心豊かに育っていくことを願っています。



絵を描いた人：林 優翔くん（6歳）



社会福祉法人 光台寺福祉会「光台寺保育園」
〒868-0501 球磨郡多良木町多良木 3326-1
☎ 0966-42-3417



図③ 白石駅（吉尾方面）



図④ 換気孔の鉄道デザイン



図⑤ 上下：開業当時と現在の比較
（明治41年6月西日本新聞）



白石駅
当駅は明治41年6月1日、人吉本線開通と同時の開業（葦北郡芦北町大字白石834、標高66m）。八代駅から29・8km、隣の吉尾駅からは3・1kmの位置にある。坂本駅とほぼ同様、構内中央に退避線を持つ配線で2面3線の無人駅（図③）、

川線では坂本駅と共に2007年の経済産業省の鉄道遺産の一つで、坂本駅と同じく待合室の天井換気孔には鉄道庁のマーク（図④）の切抜きがあり、駅の佇まいも百年前と変わらぬ創業当時の駅舎である（図⑤現在と開通時の比較）。名誉駅長は旧職員の蓑田功暉氏（88歳、図⑥）。この駅は朝日新聞の全国日本写真



図⑥ 蓑田名誉駅長

展2014で、松田三奈さんの写真「時が止まった場所」が金賞を得ている。

河口から上流まで、その駅を訪ねる

球磨川の駅 ものがたり

連載その⑧ —白石駅

熊本産業遺産研究会 松本晋一



図① 住吉神社の灯明

球磨川は右岸の川内川の合流点、神瀬で大きく西寄りに曲がる。そこは相良家参勤交代の御飯屋（神照寺）、西南役薩軍の陣屋があった神瀬・木屋角地区で、川内川の上流は日當大岩ほか、七集落が点在する。川そばの神瀬福祉センターたかおと（旧神瀬小学校）の山側に日本遺産になった住吉神社があり、境内に川舟用の灯明台（図①）がある。昔、この付近には山から手引きやゴツ



図② 神瀬の渡舟場と筏組場（左端、岩戸智氏提供）

テ牛で引出した丸太の製材所と筏下しの集積場、神瀬の渡し場（図②）もあったが、昭和60年代には堤防が出来、その面影はない。また、この神瀬地区は新旧の三寺院を有し、歴史的にも信仰の盛んな所でもある。



図⑧ 上りSL客車（昭和30年代福井弘氏提供）

では鮎（百匁50銭）、山芋（一貫目1円20銭）とあり、当時の料金体系や1日に200人前後の乗降客、川下り客があったことが判る。同様に、旧岩戸屋旅館の戦後の女将、尾方タケ子氏は「岩戸屋の初めは、豆腐屋、木賃宿でした。家の



図⑨ 旧貨物引込ホーム

下に渡し場があつて、私が娘のころ向こう（白石駅）に行く渡し賃が2円（中略）、駅から佐敷まで、4、5人向かい合つて乗る客馬車があつて、買い物に行ったり、行商人が来たり」とか。前記の大正末と金額が異なるのは、大正との時代差による



タイトルバックの写真と比較

図⑩ 白石駅前の旅館、商店（岩戸智氏提供）

ものであろう。また白石駅前には谷川旅館、東屋の各旅館や茶店もあり繁昌したとのこと（図⑩）。小さい渡し舟がこの駅と対岸の岩戸地区を結んでお



図⑦ 旧麻生産業石灰工場（岩戸智氏提供）

ここはSL人吉号の停車駅で、今春のダイヤ改正で一勝地駅と共に快速列車各1本、普通列車を含め上下各12本が停車する。この白石の駅名は、九州上部を横断する大坂間構造線（大分県佐伯から駅上流の清正

公岩を結ぶ線）の大断層地帯（カルスト台地）がこの地を横断し石灰岩が採れることに由来する。同名の駅が東北本線、函館本線にもある。駅対岸の石灰採掘現場始点の索道が、昭和31年頃から駅下の終点・麻生産業石灰工場（図⑦）まで延びていた。駅山側には昭和45年頃まで駅から石灰工場までの専用引込線もあり、熊本への往復時には石灰を積む無蓋車や工場の稼働のそれらが良く見て取れた。またこの駅から木材・竹材・木炭が搬出され、SLの引く客車や貨物車が昭和48年春頃まで川線を走っている（図⑧）。明治41年の開通当時の貨物取扱業者には萬回漕店と吉北運輸支店の2社があつたとされる。その貨物引込線とホームは図⑨のように現在は

保線区用の管理線として使用されている。大正15年発行の「新鉄道旅行案内」の「駅の印象」では、ここは「球磨川沿岸で最も風光の勝れた處で、急瀬奔湍矢のように迅い」とあり、「駅勢」には「駅1日の乗客218人、降客173人、人吉からの球磨川下りは、此地がその上陸地となつていて、夏季には相当の賑ひを見せる」と遊船客も多い。「交通」では、馬車は天月（25銭）、白木（30銭）、佐敷（50銭）、津奈木（1円35銭）、水俣（1円60銭）とあつて、白石が昔から多方面へ通じる要所であることが判る。「見るべきところ」では岩戸鍾乳洞・高音瀬・吉尾温泉が記載、旅館には傘屋（駅前・1円50銭、2円50銭）、名物

り、写真にも船着き場が見て取れる。
 同じく田山花袋の日本一周（大正14年）にも、白石駅前前の記述がある。「そこは停車場が出来た為に開けたような村であった。新しい家屋が二、三軒河に臨んで出来て、御料理、酒肴と障子に大きく書いてあった。白粉を顔に真白につけた女などもいた」とあり、先の尾方タケ子氏の戦後の川下りの記述にも「川下りの舟が着くと、中には地方三味線つきのご一行もあつて、二階の六畳七間はいっぱい。鮎料理に一杯でそりや大賑わい、（中略）国道が出来るまでは、舟はまた川をさかのぼりするので、船頭さんたちはそりや難儀なことで、翌朝未明に起きだして、一人は棹をさし、一人は川岸から引つ張るというふうで帰っていきよりま

した」とあるくらい、当時は相当の賑わいを見せていた。

対岸の岩戸地区

白石駅対岸に在る岩戸鍾乳洞は、戦前から昭和33年9月の瀬戸石ダム完成まで、人吉・白石間の球磨川下

り着船場としても賑わった。また戦後すぐには国道219号線が熊本から人吉まで開通、付近は各旅館や食堂、商店で栄えたが、ダムの完成で川の流れが淀み、球磨川下りの終点は上流の球泉洞駅（旧・大坂間駅）下に移動している。この神瀬



図⑪ 新旧（上下）の熊野座神社（下は鍋屋本館提供）



の石灰洞窟、岩戸鍾乳洞内部と熊野座神社の当時の絵葉書（図⑪）が残っており、その様子は昔とほとんど変わってはいない。鍾乳洞の地下40mには伏流



図⑫ 新旧（上下）の着船場跡と岩戸鍾乳洞付近（右端は旧岩戸屋旅館、岩戸智氏提供）



水が流れ、昔の岩戸屋旅館の横を通り球磨川に流れ落ちていく。また近くには神様の水「長命水」もある。ここでも戦後は石灰岩が掘られ、洞の入口横では岩谷産業がトラックで石灰石を運んでいたとのこと。

着船場上には岩戸屋と小池旅館があり、アユの塩焼き・田楽・煮付けなど、この宿の売りを楽しむ船旅客が大勢いたとのこと（図⑫）。また筆者も昭和30年前後の川下り全盛時代には、しっかりとここで昼食

を摂った憶えがある。その頃は引つ切り無しに、下り船回漕用の三輪トラックが来て人吉間を往復していたの思い出す。この地の盛衰は「新・球磨学」の神瀬、岩戸屋に詳しい。

〈参考資料〉

- ・前掲 各駅停車「熊本県 昭和58年
- ・前掲「くまもとの駅と港」昭和58年
- ・「肥薩線100周年・駅シリーズ」No.9 白石駅 時代と共に、平成21年 3月27日
- ・「新・球磨学」熊本日日新聞社 平成2年10月
- ・「新鉄道旅行案内」評論之評論社 大正15年9月
- ・「旅窓」書・九州各線 修道社 昭和36年
- ・クマノの国 角川写真文庫 昭和35年
- ・「くまむらの歴史」球磨村教育委員会 平成2年3月
- ・聞き書き…岩戸智氏 蓑田功暉氏 日當国弘氏 馬場光俊氏

定吉が行く

— 8 —



© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭 鳥飼 博



人吉高校同級生で、定吉の応援団
中原丈雄さん

以前に紹介した、熊本、鹿児島、宮崎県を訪れた旅行者が出会った心温まるエピソードを基に、優れたもてなしを顕彰する『ホッとハート南九州

【定吉という人物】

昨年、相良藩吉組を結成してからは、吉組名簿は私が管理している。現在200余名のメンバーとなっているが、その大半についても即座に答えてくるので言葉も出ない時がある。

キャンペン』では、「旅先での心あたたまる体験談募集!!」を平成22年に開始した。寄せられた478件の旅先での心温まるエピソードの中から優秀賞4件が選ばれた。

定吉が選ばれた時の観光客の体験談と選考委員会の推薦コメントをお知らせしたい。

観光客のエピソード

人吉駅で周辺の観光をしたいと思いつつも、どうしたら良いものかと迷い、ウロウロしていた所、駅にいた案内人の方が声を掛けて下さいました。地図で説明して下さいたのですが、こちらの方がなかなか飲み込めて

【ゴッドファーザー定吉】

平成25年になると、福川宮司から手解きを受けたFacebookにより人吉球磨はもとより、日本各地にFacebook友達が増えてきた。それを機として定吉に会うために、人吉



福川宮司との初写真

市を訪れる者まで出てくるようになった。この頃から定吉と知り合つて意気投合した観光客には、定吉が吉名の名付け親になるシステムが誕生した。吉名とは、姓名の二字を取って○吉とするものである。この頃までは、人吉の吉を用いて吉組 (Yoshigumi) と名乗っていた。現在は大吉や吉祥と言う様に、縁起を担いで (Kitigumi) に変更され、定吉がその人に会つて感じた事を頭に付けて○○の○吉と名付けられている。

このYoshigumi当時に吉名を貰った人は多くはないが、今でも定吉と吉名で繋がっており、私も何方^{どなた}なのか定吉に尋ねる事がある。すると、「○〇在住で、○〇ばしよいやつとばい。」と即座に答えが返ってくる。歳の割には記憶力がいいなあ〜と驚かされる。

いない様子を見て、「ちようど今から帰る所なので、途中まで一緒に行きましょう。」と言って下さり、青井阿蘇神社と町屋ギャラリーに連れて行ってくれました。更に、神社や人吉の歴史・町屋の建物を説明して下さい、人吉の事がよく分かりました。ボランティアにも拘らず、私達のような個人にも親切にして戴き、本当にハートがホッとしました。「ついでだから」と、気を遣わせないように言ってくれ本当に感謝しています。お名前を聞いておけばよかつた、今更ながら心残りです。

(原文通り)

次に選考委員会 (16名) の推薦コメント8件の中から2件を紹介します。

1. 案内人が旅行者の状況をすぐに察知し、また旅行者に気を遣わせずにさりげなく案内する様子に大変好感が持てる。説明が丁寧で、知識が豊富であることが推察される。地元を訪れた観光客の「困った」



JR人吉駅跨線橋（解体前）。右はくまがわ鉄道跨線橋

を助ける事はボランティアの重要な務めであるが、「帰り道」と称して、さりげなく観光客の「申し訳なさ」を軽減させた心配りが素晴らしい。その後廻った観光スポットを見れば「帰り道」の限度を超えていることが分る。

2. 見知らぬ観光地では不安な気持ちになる事が多くあるが、こうした状況を察し、声を掛け、また相手に気を遣わせない「さりげなさ」で、町の説明など想像以上のおもてなしが行われた光景がとても感動的。地域を心から愛し、誇りに思われている事からできる自発的なおもてなしであり、素晴らしい人・地域と感じた。

相良藩【吉組】主宰【線香屋の定吉】の人となりを紹介させて戴きました。この投稿が8回目となりますので、読者の皆様にはもうお解りと思いますが、定吉という人は、地域を心から愛し、地域を誇りに思い、心優しく記憶力のいい、勉強家で知識が豊富、血液型は特殊大型で、警察官を見ると体が震えて声が裏返る人なのです。

【人吉駅跨線橋問題】

この年は、後の吉組事務所ともなっている株式会社ジャパナスの人吉事務所（Jスタ）が開設された年でもある。ある日、Jスタに來られた錦町の写真家濱田夫妻に勧められ、私もFacebookを始める事となった。すると、間もなくFacebookに地域の利

用者間で炎上する事件が起きた。と言っても火災が発生したわけではなく、JR九州人吉駅の跨線橋を解体するという情報がFacebook上で広が

り、反対運動が起きたのである。その理由として幾つかの歴史的物語があった。今上天皇皇后陛下が、皇太子殿下妃殿下時の昭和37年に

全国巡幸で人吉球磨に行啓になった際に渡られた跨線橋を解体するという事らしい。まして、

この跨線橋には国産初となる日立製作所製造の鉄道レールが使用されていた。それまでの跨線橋には、外国製レールを使用した跨線橋が多かった様である。このレールを使用した跨線橋には、1910年（明治43年）日立製作所と刻印してあった。SL人吉も国内最高齢の蒸気機関車であり、同じく日立製作所製である。

全国巡幸で人吉球磨に行啓

になった事は、私の記憶にも鮮明に残っている。錦町の西村小学校の低学年だった私も、肥後西村駅ホームに小中学校の生徒や職員等と整列し、国旗の手旗を振って現あさぎり町の上（旧上村）に赴かれる車両を見送った想い出がある。

跨線橋問題が起こった時の人吉市長は「100年前の技術を今に伝える肥薩線を世界遺産に!!」と超特大花火を打ち上げていたにも拘らず、これといった行動をその時に起こさなかったために尚更大きな炎と化してしまった。「世界遺産など自分の市長在職中には絶対の材料となる。」と市長が言っていたという巷の噂が真実しやかに導火線の火の様な速さで広がり、いつ治まるのかも解らない状況となつて



跨線橋を渡られる皇太子ご夫妻（昭和37年）

柳人があじわう漱石俳句

— ⑧ —

いわさき楊子



去ればにや男心と秋の空

(漱石28歳)

おや、と思う人も多いはず。「女心」ではないのかと。この時代は「男心」が慣用句としては正解。このように表に出る心の表現に女を使うことはなかった。政治も文学もすべて男が表の社会だった。いまは女も自由に表現できるいい時代になった。ただし裏が表という真実もある。

当時は、めでたいときには菊の花びらを杯に浮かべた菊酒が飲まれていた。天地とは宇宙、世界のこと。菊を浮かべた酒杯が豊かに満たされているようす。

ジンダーや女こぼは便利です 楊子



此頃は女にもあり薬喰

(漱石28歳)

「薬喰」は、広辞苑によると滋養のために獣肉を食べることである。肉ではなくて薬を食べるといいかえているのだ。明治時代は、女性には肉をおおつびらには食べなかったことがうかがえる。現代の肉食女子などという直接的な言い方より、「薬喰」はオブラートにつんだ日本らしい表現。

このごろは女にもあり一気飲み 楊子

【いわさき楊子／川柳誌「裸木」編集人、熊本市】

しまった。

JR九州としてはバリアフリー対策として、くまがわ鉄道のホームまでを結ぶ構内踏切を造ろうとしていた。時代の流れからしても当然の選択であつたかもしれないが、定吉は今でも「どうにかして明治・大正の文化遺産を保存という選択はできなかったのか。」

悔しそうに「あの跨線橋は、歴史を黙して語らず俯瞰して来た。出征兵士の方々を見送り、結婚や集団就職で涙を流して故郷を離れる人々に幸せを祈りながらも無言で見送つて来た。それぞれの想いを長年に渡つて背負つてきた跨線橋なんです。それを解体廃棄という選択は、これまでの跨線橋の歴史と共に、製造者の気概と想いを無にするものであり非常に残念で

ならん!!」定吉の目は桃色に染まっていたが、この話しを聞きながら私も泣いていた。戦後生まれではあるが定吉の話の全てが理解できた。定吉は勉強家である。事を起こす際には大義名分が必要だ。出来得る限りの事は調べ上げての彼の行動と意見であつたろうと思つた。

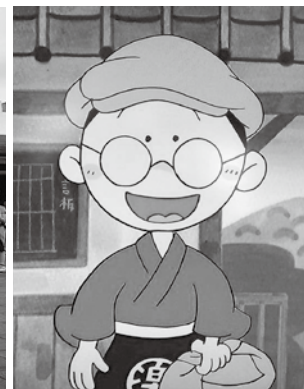
定吉の話聞いて同調する仲間が増え、跨線橋解体反対運動はこの後1年近く続いたのである。この活動により定吉を取り巻く仲間が増えていった事は言うまでもない。

*前号に誤字がありました。「日本香道」は、「日本香堂」の誤りでした。お詫び申し上げます。

【とりかい・ひろし／人吉市】



「田んぼの学校 in ひとよし」の一行をもてなす吉組の定吉



日本香堂の線香屋の定吉



図 北大久保B遺跡の住居跡

の、まさにその場所にムラが置かれたわけを考えてみたい。久保台地一帯の地形は、九州山地の広貝山（標高二八六・八メートル）から南北方向に延びた、二筋の丘陵と、それぞれの丘陵の尾根筋から相撲の廻しの下がりのように延びた、大小さまざまな尾根筋や小丘陵によって成り立っている（写真①）。それは、幾筋もの中小河川が刻んだ地形で、東側の丘陵の最南端部から南西方向に延びた小丘陵の末端部にある、久保台地もまたそれらの中の一つである。台地の南側に目を移すと、球磨川が西方向に流れている。またその北側には、西方向に流れる牛繰川と赤木川

がある。つまり、台地が南側と北側に挟まれて、南西方向に広がっているのである。これは、南北の川が小丘陵を削り込んで、現在の地形を形作ってきたことを示すものである。北大久保ムラは、この台地の北半部に営まれていた。こうした、台地上のどこにムラが構えられていたのかの問題は、当時の人々の暮らしの行動パターンに何がしか規制されていたかどうか、とは、想像に難くない。例えば、コメ作りに便利な場所にムラを造つたかどうか、は、当然のことだろう。ここに、北大久保ムラが台地の北側に営まれた意味から、彼らの生業の様子がつかめてくるのではないだろうか。それを探る糸口があるのではないだろうか。

くまがわすじの考古地誌

(3)

球磨川筋の弥生時代③

熊本県立装飾古墳館長 木崎康弘

(NO.164)

なぜそこに置かれた？ 大久保ムラ

本連載2（5月号）で、北大久保ムラの広さを、竪穴式住居跡の広がり（亀ノ甲式土器の出土箇所から、約三四〇〇〇平方メートルと推計した。その中に、一〇〇〇平方メートルの広さの居住域があつたことも、住居跡の集合度合から、推定した。さらに、住居跡密度から、居住域内での住居総数をおよそ七〇八基と推計した。では、北大久保ムラが、なぜ大久保台地の、そこに置かれたのだろうか。その問いへのヒントが上記の中に二点あるので、少し踏み込んで取り上げてみよう。

まず、住居跡は、北大久保A・C遺

跡の中でも、B遺跡に一基と、C遺跡の北端部に二基が集まっていた点だ。このことから、B遺跡と、C遺跡の一部に、居住域のあつたことが分かった。次に、住居跡が見つかっていなかったが、B遺跡の西隣りのA遺跡からも、亀ノ甲式土器がまとまって見つかった点だ。このことから、居住域の西隣りの区域は、住居が配置されないエリアで、作業などを行った生活域が置かれていたことがイメージできた。

このように、北大久保ムラは、北大久保A・C遺跡の中でも北半部にあつたことがわかる（図）。そこで、もう少しイメージを膨らませて、大久保台地

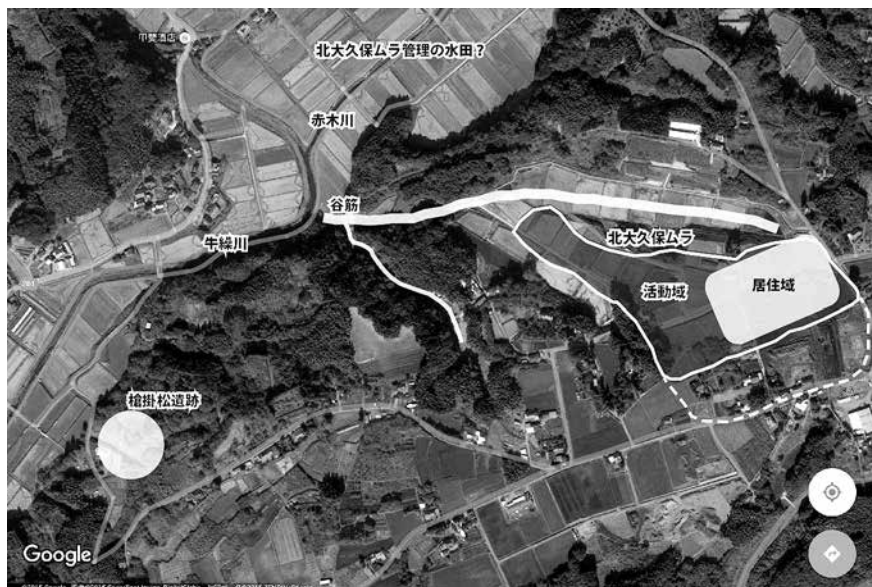


写真 北大久保ムラとその周辺

の考古地誌』二二九。
 そんな時代である。北
 大久保ムラは、牛繰川
 と赤木川が流れる沖積
 地に下りるため、否、
 沖積地に広がる水田に
 向かうため、最短距
 離の場所に置かれてい
 たのではないだろうか
 (図)。そんなことが
 イメージされてならな
 いし、あくまでも想像
 だが、球磨で水田栽培
 が始まった、そんな事
 情がおぼろげながら見
 えてきそうでもある。

(つづく)

文献『大久保遺跡群』
 (多良木町教育委員会、
 二〇一四年)。



写真①大久保台地と北部の地形

分かる。それは牛繰川と
 赤木川に向かつて延びる
 谷で、居住域から谷伝い
 に下ると、容易に沖積地
 に行ける地形となってい
 る。また、ムラの北端付
 近からも谷部に下りるこ
 とができるようで、生活
 域からのルートもありそ
 うだ。ここに北大久保ム
 ラが台地北側に置かれた
 理由が分かりそうだ。
 弥生時代は、水稲栽培
 が始まった時代だっ
 た。それは球磨の地でも
 当然で、錦町四塚遺跡
 の初^もの圧痕^{あつこん}が付いた土器
 や、球磨の各所で見つかっ
 ている石庖丁^{いしぼうちやう}がそのこ
 とを物語っている(『球磨

KINaの考古じばれ話

考古学エレジー②

♪あの子は良家のお嬢さん／おいらは
 しがな考古学徒／どうせ叶わぬ恋な
 らば／トレンチ掘ってあきらめよ／あ
 あ、あきらめよ

またまた考古学エレジーで、その二
 番です。作詞は、島津義昭さん。

トレンチは、試し掘り用の細長い
 坑。唯ひたすら、円匙(スコップ)と
 移植ごてで以て掘り下げます。そこで
 登場するのが円匙投げ。すくった土
 を、エイとばかり投げ飛ばします。土
 が、そのままUFOのように飛んでい
 けば、拍手喝采。花火のように散らばっ
 たら、皆沈黙。舞い落ちてきた土でト
 レンチの底は、見るも無残です。
 高校生が塚原古墳群で掘った100
 mトレンチ。まさにレジェンドです。



今回は、私が主催する食のイベントのお知らせです。

昨年、錦町で開催した「くまオーガニック祭」。2000人を超える来場者で盛り上がり、様々なメッセージ

を込めたビッグマルシェとなりました。

「オーガニック」を主体にしたイベントを初めて開催して、色んな方と「オーガニックについて」討論してきました。農家さん、消費者、商売する側、様々な観点で課題を見つめ、理念を統一しようとしたが、それはとても難しいことなのだということを学びました。

「オーガニック」とは何か。ネットで調べると、農業や化学肥料を使わない栽培方法、とあります。

「環境に配慮し、健康を維持しながら生活していくこと。」と意味づけされていますが、解釈は人それぞれでいいと思うし、個人レベルで進めていく事です。

何が正しく、何が間違っている。という良し悪しで判断するものでもない

ような気がします。

私が思う「オーガニックとは」。それは、人と人が有機的につながり、現状と並行して、感情を大切にしながら関係性、だと思っています。有機野菜や無農薬。無添加の食材、天然素材で作られた衣類、環境に配慮した建物。など、衣、食、住において、お互いを思いやり、気を使い合いながら、エネルギーを交換していく事。が最も身近で何より楽しい生活が送れると確信しています。

むづかしいことではないのです。例えば、誰かが作ってくれた食事を「いただきます。」と言って感謝する事。

安価な衣類を大量購入するのではなく、丹精込めて作られた衣類を選び、長く着ること。

こまめに家を掃除して、健やかに過ごしていくこと。

そんな圧倒的な日常に、できるだけオーガニックを意識してみることに。

それだけで、きつと精神的な部分もうまく満たされ、心に余裕ができて、大事なことをもっと大事にできる。そんなことの循環が「オーガニッ

ク」だと私は思います。

都会では「オーガニック」のイベントはすぐできます。需要があるからです。

しかし、敢えて産地である球磨人吉でこのイベントを開催することに私は挑戦していきたいのです。

都会だからできる事は田舎ではむづかしい。という

概念を取っ払い、今、田舎だから発信できることがあつとあると思います。



11月26、27日の2日間。錦町くらんど広場で開催い

たします。

ぜひ、お誘い合わせの上、ご来場ください。出展者や、私たちスタッフが発信しているメッセージを受け取っていただけたら幸いです。



【うらかわ・はるか／人吉市「さんばカフェオーナー」】

春光寺をあるく

森山 学

八代城主・松井家菩提所、江東山春光寺（臨濟宗）は八代市古麓町にある。産交バスにて八代市立病院前を下車し、徒歩十分である。

古麓町は、球磨川が八代平野に至り大きく湾曲する右岸にある。この右岸に、加藤清正時代、続く八代城主・加藤正方時代に大改修された萩原堤がある。大ばねなど七基のはね（水制工）を備え、松並木が植えられていた。

この萩原堤には、大ばねに狐や狸（「球磨川の撥の名称」、夜豆志呂

五二号）、松に狐火や一反木綿（「ふるさと百話」）が出る、という言い伝えがある。八代の民話「彦一とんち話」にも、この地を舞台とする話が多く残されているが、「殿様の行列（化けくらべ）」もその一つである。彦一と狐が化けくらべをする内容で、彦一は殿様の行列に化けて萩原堤を通過すると宣言する。狐が松の上で待っていると確かに行列がやってくる。しかしこの行列は本物だったという話である。さて、この行列はどこへ向かっていったのか。彦一とんち話の原型と考えら



写真① 門前から見た桜馬場。屈曲しているが萩原堤へ続く

れる「彦八話」が全国に流布し、八代に定着したのは、江戸時代でも、松井家が八代城主を務めた中後期である。行列の主は松井家となるが、とすれば、菩提所である春光寺へ向かったと考えられる。萩原堤を寺ばね付近から桜馬場へ左折し、直進すれば春光寺である（写真①）。

春光寺は、細川家の家老・松井康之が父・正之の菩提所として、天正十一（一五八三）年、丹後久美浜に「宗雲寺」を創建したことに遡る。宗雲寺はその後、豊後、小倉と移り、その間、康之没（慶長十七年

一六二二）後に「春光院」に改める。寛永九（一六三二）年、細川家の肥後入国に伴い、松井家も熊本に移るが、寛永十五（一六三八）年、肥後藩主・細川忠利の命により、康之の菩提所「春光院」を建立し翌年に落成する。これをのち「松雲院」と称する。八代城主・細川三斎没（正保二年一六四五）後、松井興長が八代に入城する（正保三年一六四六）。この際、八代城出丸にあった細川幽斎菩提所「泰勝院」を、松井家菩提所「宗雲寺」に改めている。

延宝三（一六七五）年、八代・旧平河原町の織田信長菩提所「泰嚴寺」が焼失すると、泰嚴寺を宗雲寺に移し、松井家菩提所としては、新たに熊本の松雲院を八代・古麓町に移築し「春光寺」に改めたのである（延宝

五年一六七七）。境内は北西向きに門を開き、門前に石桁橋をかける（写真②）。本堂（明治二十年一八八七再建）も門に向かい建つ。

現在の門は隣の番所とともに、八代城三の丸永御蔵から昭和六二（一九八七）年に移築されたものである。武骨な薬医門で城郭らしい力強さがある。門・塀の瓦には細川家の九曜紋、松井家の三つ笹紋が見受けられる（写真③）。

これ以前の門としては、明治時代に浄信寺（八代市本町二丁目）に譲り渡したものである。これも浄信寺に現存する。浄信寺は、八代城主・加藤正方の父・可重の菩提所であり、門の瓦には加藤家のかたばみ紋が見受けられる。一方、墓股^{また}という部材に



写真② 石桁橋から門、その奥に本堂玄関

は三つ笹紋も発見でき、門の由緒を確かめることができる。

さて春光寺に戻ろう。門に立ち境内の本堂を眺めると、石段の上、真正面に唐破風屋根の玄関が目に入る(写真②)。

一般的によく見かける本堂は、参



写真③ 塀の瓦の九曜紋と三つ笹紋



写真④ 本堂正面。曲線の屋根が唐破風



写真⑤ 本堂内部。柱と敷居で仕切られる

入ると正面は右脇の間、右脇の間から上間へまっすぐ進めば、書院へ続く渡り廊下である。廊下には花頭窓が開く。
延宝五(一六七七)年移築当時のものと考えられる書院では、まず「次の間」に足を踏み入れる。そこから左奥に、城主の

る。唐破風の玄関を進むと左手に広縁があり、屋内を六つの部屋に仕切り、縁先に枯山水をつくる、まさにあの方丈である。

春光寺本堂内部も中央に内陣と室中の二間、その両脇に脇の間など二間ずつ設けている(写真⑤)。玄関を

「御成りの間」がある。座敷飾りは、床の間と床脇が各々一間半の幅で、床脇の違い棚は雁木棚である。雁が飛ぶときの段違いの隊列と同様、三枚の棚板が、床の間へ向かい階段状に高



写真⑥ 次の間から御成りの間の座敷飾りを見る

くなっていく(写真⑥)。この広間の縁先には長春園がある。

さて、このあたりでお気づきでしょうか。建物の配置は、

桜馬場、石桁橋、門、玄関、右脇の間・上間、渡り廊下、

次の間と一直線になっていたことを。

桜馬場は途中に若干の屈曲があり見通しが効かないため、普段は気付かないものの、意識して眺めると、なるほど、建物の間取り、配置が町の文脈とともに考えられていることを発見できる。

長春園を包む山肌の上には、松井家歴代の古廟と新廟が森閑のなか



写真⑦ 長春園の苑池越しに書院を見る

に佇む。特に新廟は先ほどの軸線上に位置づけられていると解釈できよう。新廟へ続く長春園の裏の道を登る途中、苑池越しに書院を眺める(写真⑦)と、八代の建築文化の豊かさを実感できる。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

勝清とふたりの姉と

上田精一

十一月二十六日は小山勝清の祥

であった。

月命日にあたる。一九六五年（昭和四〇年）のこの日午前八時、球磨川の瀬音が聞こえる病院（手塚病院）で六十九歳の生涯を閉じた。直腸癌

勝清には二人の姉がいた。私の祖母で十四歳年上の長女池井ちやは、それはそれはやさしい女性であった。弟勝清を息子のようにかわいがっていた



杖を突いてようやく立つ（熊大病院にて）

の子どもにも心に覚えている。祖母は一九六一年二月二十二日、八十歳で病死したのだが、勝清からの「夢で会った勝清」の簡素な弔電が心に残っている。祖母を詠んだ次の歌とともに――。

山にます菩薩に御名
たてまつる

希望燃えたつ若葉観音

昭和三十六年一月作とあるから重篤の姉を励まそうとした歌なのだろう。

二女の川辺みちは笑顔を絶やさぬがやかましい「おみちおばさん」でもあった。若くして夫と死別。二男二女を育てるために美容師となり美容院を開業。その一方で婦人解放運動にも身を投じる。戦後は熊本市議会議員、県教育委員長を務めるなど、熊本県から一歩も出なかった我が祖母とは真逆のまさにキャリアウーマンであった。

勝清とは五つ違いのこの「おみちおばさん」は勝清にとってまさに頼りになる姉であつたにちがいない。生涯、

勝清はこの姉に甘えた。

「生まれてよりずっと、誇張していえば、勝清のことが私の頭の中を埋めつくして、一時たりとも去ったことはなかったのである。気がかりであった。異常ともいふべき性格や、荒んだ生活が、いつも重しとなつて私の上にのしかかっていたのである」。（もう一人の武蔵ガンに死す）（『文藝春秋』一九六五年五月号）と述懐しているように切つても切れぬ姉弟仲であった。次の歌からはこの姉への感謝の思いが伝わってくる。



息子のように愛した長女池井ちや

友も子も遠くはなれて伏すわれを
老いたる姉が
一人ひとりす

熊大病院に入院していたころの歌だろう。私はそのころ五木二中（一九六四〜六七）に勤めていた。単車（二二五CC）で大通峠を越え大

杖をついても病室のドアまでも歩け



最期をみとった二女川辺みち

なくなっていた勝清が「球磨に帰りたい」「球磨の山が見たい」と言い、救急車に看護婦、医師つきそいで人吉の手塚病院に移った。一九六五年九月四日のことである。勝清の最後のわがままであった。着いたときは危篤状態であったが、ふるさとに帰ったよろこびからからか、小康を得て、手鏡で球磨川の流れを眺めてよろこんでいた。

一方、「民俗主義文学論」（第一分冊）を長男・勝樹に一夜で口述筆記させた。四〇〇字原稿用紙二十五枚を麓町のひかりプリント（ガリ版印刷）は一日で完成させ勝清をよろこばせた。十月三日であった。息子勝樹は数日で全国の知友に郵送した。私もその六十四冊目をもらい今も大切に保存している。

いつものように身体をさすっていると

“今日は精一君に色紙を書こう”と
言つて筆をとつた。仰向けに寝たまま
で字配りもみごとに

ようやくにかえりきけり

故里のわがおくつきも

はやそこにあり

「精一君にささぐ、勝清」としたた
めた。

再び「おみちおばさん」の文章を

引いてこの稿をとじようと思う。

「最後の日が来た」。人さまに迷
惑をかけ通した生涯、温かい多くの
人の援助に支えられてきた人生への懺
悔と心からの感謝のいまだすまぬま
まに、弟は息を引きとてしまった。
昏々と眠りつづけていた弟に一瞬正気
がよみがえった。『ああ、よく眠つた
ね。生命のことは神様にまかせてあ

るので、なにも思わずらうこともな
い。しかし……生きていくためには夢
をもたねばならない。つらいね——
それが最後のことばであつた」(「もう
一人の武蔵ガンに死す」より)。

【うえた・せいいち／人吉映画セン
ター代表、人吉市】

相良村講演会

肉親ならではの勝清論

(編集部)

10月22日、相良村総合体育館ア
リーナで「相良村誕生60年記念第1
回さがら産業文化祭」があつた。小

山勝清生誕120年を記念する講演
会も開催された。講師は上田精一さん
(79歳)。上田さんは勝清の姉「ちや」

の孫にあたる。上田さんは、肉親と
しての気持ちをまじえて、「私の中の
大叔父・小山勝清」を語つた。

「小山」の読み方から講演ははじま

つた。「こやま」と「おやま」の二通り
に読まれているが、勝清は「こやま」
とよばれることを希望していたので、

講演では「こやま」を使うとされた。



「第1回さがら産業文化祭」で講演する上田精一さん (10月22日)

上田さんによれば、勝清の一生は「波
乱万丈の人生」と要約できる。済々黌
鹿本中学校の両行を放校処分になり
挫折し故郷に戻り、父の死後、上京
して堺利彦の書生、足尾銅山争議を
していた時代。この青年時代を上田
さんは「無産主義」の時代とした。
この無産主義を捨て故郷に戻ることに
なる。『或る村の近世史』はその頃に
執筆の準備がなされた。勝清は上京
してこれを出版した。この頃は歴史学・
民俗学に接近した時代であつた。しか
し、これも捨てて禅に惹かれた。『そ
れからの武蔵』は禅時代の作品。晩
年に、死の床で執筆した「民俗主義
文学論」が勝清の到達点ではないか
とした。挫折をくりかし、そのたび
に故郷・相良に戻り、心の傷をいや

し活力をとりもどしていたという。

勝清は、上田さんを「精一くん」
と呼んで可愛がつてくれていたとい
う。その上田さんが教師になったと
き、勝清は「権力がいちばん嫌いだ。
権力に負けない教師になれ」と伝え、
その言葉が上田さんの教師生活を方
向づけたという。「子どもたちよ、か
しこくなれ」が勝清の口癖であつた。

そうした勝清だが、朝から岩塩を
舐めながら焼酎を呑み原稿を書く破
天荒な大叔父でもあつて、執筆がす
すまず、挿絵画家をたびたび困らせ
た。作品が完成すると多額の収入を
得て大判振る舞いの生活をすごし、
お金が少なくなると金策に走る生活
であつた。甥姪から慕われる勝清で
あつた。子どものころから作文が好き
で、それを姉の「みち」にみせていた。

みちは勝清の作品をほとんど下手だとけなし、そのたびに、勝清は涙をながしていたという。みちは勝清が亡くなったあと、はじめて勝清をほめたという。女性史家の高群逸枝と勝清の微妙な関係に触れる肉親ならではの話も披露された。



会場では勝清の作品や資料が展示された

講演中、直腸ガンで入院していた熊本大病院で勝清が歌った「五木の子守唄」を録音したテープが流され、参加者は「勝清節」とよばれる彼の肉声に接することができた。参加者は大満足であった。

上田さんは、勝清の「牛使いの少年」を演劇にしたときの思い出などを話

したのち、勝清の生家の保存や、勝清の資料を集めた文学館の設立が親族の夢と語って講演を結んだ。
会場には勝清関係の多数の作品も展示され多くの参加者が見入っていた。当日は大雨であったが約70名が集まった。

上田さんの講演に先立ち、くまもと文学・歴史館長の服部英雄さん（歴



勝清の業績を紹介する服部さん

史学専攻）が「盗人晩」を中心に勝清の業績を解説。盗人晩と同一の慣習は静岡県藁科地方などでみられること、盗人晩は旧暦の満月の日であること、夜這いについても触れ、勝清の夜這い論は歴史的というよりも理想主義的な側面があったのではないかなどと説明した。

球磨川石硯

亀田英雄

硯。書を筆で書くときに使う、あの硯、書道で使う、あの硯です。

書を知らず、書道にとくに関心があるわけはありませんし、その道について

はまったくの素人ですけれども、ここで、「球磨川石硯」を紹介させていただきます。
昨年でしょうか。知人から、坂本村（八代市坂本町）には、硯に適した石がある、その石のある場所を教えてくださいと頼まれました。知人は硯の愛好家で、そのような質問を受けたのですけど、そのような石がどこにあるのか見当もつきませんでした。坂本内の友人・知人にたずねても誰も知りませんでした。仕方ないと探すのを断念しましたが、そのときはじめて、硯に適した石が坂本内に存在するのを知りました。
偶然は重なるもので、先日、「球磨川石硯」の実物に接する機会をえました。まったくの素人ですけれども、美しい作品であることはわかりました。調べてみると、「球磨川石硯」の製造は戦国時代の末期にはじまり、昭和のなかごろまで人吉・球磨・八代にすぐれた硯師が活躍していたこと、



硯用ヤスリ（銘不明）。これで硯を彫る

その頃まで熊本の伝統工芸品のひとつにあげられていたことが分かりました。江戸中期の文献には「八代名物」と記載している例もあるそうです。球磨川流域に、そのような「原石」が点在していること、それを利用して硯を造っていた名工が昭和の時代まで存在していたことは、いまのうちに記録しておくべきでしょう。

時代の変化は速く昭和のことさえ遠い過去のように思いがちだけれども、客観的には、近い過去にすぎません。いかにすぐれた物をつくろうとしても、その材料がないかぎり、そうした作品はつくれません。少なくとも硯づくりに関するかぎり球磨川が宝であることは確かです。ついでもながら、「球磨川石硯」のうち黒色粘板で形成されているものを、明治中期以降、「龍嶺石硯」と呼び名品とされています。

【かめだ・ひでお／林業、八代市坂本町】

くまがわ狂句

村上鬼拳

青畳 囲炉裏も切つてみどうなる
行方不明 血眼になる文化庁
目を閉じて お下げの頃の君がおる
全然違う 歴史は曲げてしもうつる
奥座敷 いま法案の出来上がり
びっくり 赤も着こなしきんなはる
怪しい 年金で建つ家で無ア
ひっ縮み 「過程の医学」読み漁り



【むらかみ・きけん／人吉市】

山江村立城内小学校

松本佳久

昭和63年に廃校された山江村立城内小学校は明治7年、万江村城内の西福寺の寺子屋に万江村立城内小学校として創設されました。明治22年、万江村と山田村が合併して



旧・山江村立城内小学校校舎（現ケニアハウス）

山江村が誕生すると、山江村立城内小学校となりました。大正8年前後には高群逸枝さんの御主人、橋本憲三先生が教鞭をとられています。

城内小学校は昭和10年頃に山

江村万江神園へ移転しました。

昭和63年、万江地区の3小学校1分校が統合して万江小学校が誕生した時に城内小学校は解体する予定でしたが、私の家内が「壊すのは勿体無い」と直ぐに実家から200万円を借用して来て、再建できるように丁寧に解体しました。私も山江農協から農業近代化資金を500万円を借用し、他にも火災保険や生命保険担保の証書借用資金等を最大限に借り入れ、どうにかこうにか再建したのが、今のケニアハウスです。

昭和の終わり頃から平成5年頃の話です。
1995年4月に上棟式、12月に落成式を行い皆さんで喜び合いました。

木土台・床板・建具・合掌・梁・桁・垂木・裏板・瓦など、当時の多くの材料をそのまま使用しています。

大工さんも意気を感じて良い仕事をして下さいました。解体の時も棟上げの時も、多くの地域住民の方々、友人・知人に大変お世話になりました。

そんな風にして城内小学校の校舎は残りました。

【まつもと・よしひさ／球磨郡山江村】

「町家ギャラリー立山」のおはなし①

山口啓二

青井さんのすぐ東裏、人吉物産館の前の道を隔てて北側にあるギャラリーは誠にもって珍しい『本の杉の木』で建てられた町家である。正確に言えば、床の間と廊下は杉材は適しないからか、それぞれ樹齢が四百年以上の桑の床柱などと三百年程の霧島赤松を使用した廊下。今ではもう手に入らない木々を使った床の間、柱目の赤松の廊下など、とにかく柱や板に節が一つもない不思議な家。

現在は鍛冶屋町の老舗お茶屋「立山商店」さんが所有し、ギャラリーとして様々な催事をなされているが、この家は元は木材業「永田村右衛門」さんのお宅だった。後年いくつかの事情もあり手放す事となるが、周辺の建物とともに取り壊してその一帯に娯楽施設を作ろうとした人がいたらしく、なんとかそれを阻止して現在の持ち主である立山商店

に変わった。この家が出来た経緯もなかなか面白い。

今からおおよそ四十年前、二十歳ほどで明治十年の『西南戦役』に加わった加世田の村右衛門氏は、西郷隆盛を大将とし大雪の降る人吉をあとに熊本城を攻めるがこれがなかなか落ちず、田原坂で官軍と大激闘するも敗戦、官軍に追われて同士とともに矢部を越えて人吉までようやく帰って来た。敗走の途中球磨郡に入ると、山々にはこれまでに見た事も無い立派な巨木が至る所に茂っていた。

「よし、戦が終わったらいつの日かこの地で木材の商売を成功させてみせる」

彼はそう心に誓った……はずだ。

雨は降る降るの歌に唄われた『馬上豊かな美少年』とはもしかして彼のことも。

四月の末に桐野利秋中将率いる薩摩本隊は人吉で二年間を持ちこたえ、その間に更に北へ進撃するべく城内辺りで武器弾薬製造などの準備をしていたのだが、五月には郡内各地で官軍との小競り合いが起き、市街地の住民は鍋釜を持って農村部へと避難せざるを得なくなった。

官軍は山田少将を頭に七街道を抜け人吉に入り、元相良藩士で官軍の幹部になっていた新宮簡による人吉総攻撃が始まる。結果たった数日で西郷軍を人吉から追い出したのだった。田原坂での激戦ほどでは無かったものの戦闘最後の一日は球磨川を挟んでし烈な戦いが起き街は焼失、その一五年前の『寅助火事』からようやく復興された城下と町民街の殆どがまた焼き尽くされる事態となる。

ついに六月一日、薩軍は大橋や小保橋、田町橋を焼き落とす大畑を抜けて加久藤峠を越え小林へと向かった。この人吉戦で薩軍死者凡そ二百二十、行方不明者約八百名を出す。遺体のほとんどは麓町で茶毘に臥された。焼かれた場所の前にはのちに西郷の盟友・勝海舟の書によるとでかい石碑が建てられた。ちなみに人吉での官軍の戦死者は八十五名ほど。



一本の杉の木で建てられた「町家ギャラリー立山」（人吉市中青井町）

加久藤を越え小林方面まで無事にたどり着いた氏は、本隊の最終帰還先である城山には向わず、別働隊である宮崎県庁方面攻撃に命ぜられたのも彼の運命の分かれ道だった



昭和9年の「永田村右衛門商店」の様子

のかもしれない。そのうち九月に城山も陥落し戦いはいつしか終わり、故郷の加世田へようやく帰り着いた。その後しばらくして縁者を頼り小林で林業に携わったが、やはり球磨の巨木に思いを馳せたのか、明治二十二年にここ人吉で本格的に木材業を開業した。仕事はごくごく順調に進み破竹の勢いで大成への道を歩む。

この二十ほどあとに旧鹿児島本線（現在の肥薩線）が開通する訳だが、本線が人吉を経由したのも現在地に人吉駅を造ったのも氏が球磨郡中の木材をこの辺りに一手に集めていて、それを輸送する手段に最適な場所であり、また八代の大手製紙会社の良き仕入先としても多分に貢献したのであろう。この頃氏は巨額の富を手にする事となった。でもこの頃に裏山、人吉西小付近から撮られた駅周辺はなぜか何ともものさびしい。

（下につづく）

【やまぐち・けいじ／人吉市】

史料発掘

①イギリス海軍中将の 球磨川くだり

明治42年5月25日付九州日日新聞は、イギリスの支那艦隊司令長官ラムトン中将が、前日24日に球磨川を下ったとの記事を掲載した。

「中将は、五月二三日に人吉に一泊し、二四日早朝、米良人吉町長らと川舟二艘に分乗して、球磨川をくだった。在郷軍人や小学生らが万歳してみおこった。ラムトンの舟には椅子が据えられていて、日英両国の国旗で飾られた。ラムトンは、チャンバレムの案内記から球磨川に詳しい様子で、他に英

（編集部）

文の案内記三冊をもち、ときどき目を通し、案内役の米良町長に、人吉に巨木のない理由や西郷隆盛が通った道順などを聞き、川中の漁師には釣れたかどうかを質問したり、筏師の悠々とした生活ぶりに目をとめたりした。修理などの三瀬では波が舟に打ち込み、ラムトンのズボンがずぶぬれになった。米良町長が席を替わろうしたが、このほうが豪快でよいと、ふこうともしなかった。」

イギリス海軍の編成上、ラムトン中将がどのような位置を占めていたかは不明であるが、軍事高官であったことは間違いない。この軍事高官が内陸部

の人吉に赴いたのであった。おそらくは日英同盟に基づいての人吉入りであったろう。日英同盟が、ロシア牽制を目的に明治35年（1902年）にむすばれた軍事同盟であること、締結国（日本とイギリス）のいずれかの国が二国以



人吉市中の全景（岩本活版所発行）

上と戦争状態に入ったときには他国も参戦する旨を定めていたこと、日本の第一次世界大戦参戦の根拠になったことは周知のとおりである。仮に日英同盟に基づく人吉入りであったとすれば、締結から7年後の、肥薩線開通（明治



昭和7年の球磨川下り。出船前の与謝野晶子夫妻
(鍋屋本館所蔵)

41年) 直後の人吉訪問であった。記事中の「修理などの三瀬」は、おそらくは「二股の瀬」、「修理の瀬」、「網場の瀬」の三瀬（いずれも球磨村）であろう。

他国の軍事高官であったとはいえ、人吉町のラムトン歓待に驚く。人吉町だけでなく、どこに地域でも同様の歓待をしたのかもしれないけれども、少なくとも、人吉町の歓待の様子は分かる。チャンバレムの案内記ほか三冊の案内記を所有していた点も注目される。これによつて明治42年頃に旅行記の普及の度合いを確認できる。

記事中の「人吉に巨木のない理由や西郷隆盛が通つた道順などを聞き」は興味深い。巨木は実際になつたのであろうか（他の日本の町と比較しても）。ラムトンが西郷軍の人吉通過に注目している部分も注意される。軍人らしい着想であるといえ、それまで

だが、西南戦争についての情報は外国人にとつてもある程度は周知の事実だったのである。補足すると、西南戦争勃発直後から、ル・モンドなどの外国紙は西南戦争の記事を掲載し、西郷軍を「反逆軍」と明記した。

②「球磨川下り」定期便

九州日日新聞昭和2年6月5日付は次の記事を掲載している

「球磨郡人吉市から白石駅までの川舟は、乗合というのがなく団体か貸切でないと球磨川下りができなかったのを、人吉町会では球磨川深勝旅行の便を計り、町費で補助することを決議した結果、いよいよこの四日から毎週土曜と日曜の両日、午前十時に川舟を出すことになった。一人前賃金は八十五

銭で、人吉九日町二葉旅館で買つている。土曜日曜の定刻十時になれば一人でも二人でも舟を出すから、わずかの賃金で九瀬激流の球磨川下りが出来ることになった。この定期船を出すことにつき人吉、中原、渡、一勝地、神瀬、大野の各町村長が二日、人吉町役場に集合して旅客の待遇、球磨川兩岸の風致設備等につき協議会を開いた」

明治41年の肥薩線の開通後に、観光用の「球磨川くだり」は始まった。鉄道開通にともなう舟運業の衰退にともなう対策として始まった。当初は、別便・臨時便しかなかったが、昭和2年に「定期便」が運用されるにいたつたのであった。

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

曼珠沙華畔に植えしの立礼に農夫の心思いゆかしき
枕もと遠く雷鳴聞きながら猛暑の終わり近づくを知る

三原 竹二

山間の清水したたる岩かげに彼岸花咲き御仏座すか
中秋の月しみじみと見上げおり夫と散歩の静かな夜道

坂本 ケイ

ひと月も家を空けたるわが庭に紫露草はびこりており
子や孫に炊事洗濯お掃除と頼られ生きるも元気なれこそ

上田 廸子

朝霧に湿りて稻穂項垂れて嵐に遭わず刈られるを待つ
墨汁の和紙に密かにひろがるを見ているような真夜の静けさ

宮川しのぶ

先輩の訃報に接しこの次は俺の番かと鏡に語る

吉岡 弘晴

スーパードメロを見ながら品さがすわれと同じくおひとりさまか

沖繩の知事は怒りの声をあぐ国に阿る判決不当と

共闘のうねりはなおも高まりぬ好戦政権打ち倒さんと

上田 精一

郡築干拓の農業 ⑧

磯田 毅

高度経済成長で失ったもの

今回は、郡築地区の水産についてお話しします。日本の高度経済成長は農村の若い働き手を都市に呼び込むことで進みました。昭和30年代の集団就職の風景は、八代の写真家「麦島勝」の写真集に見てとることができます。八代駅において都会へ旅立つ中学校を卒業したばかりのあどけない子供らの表情には、見知らぬ都会の生活に対する不安と、大人社会に出る喜びとで複雑なものがあるような気がします。す。「写真家・麦島勝の世界」が八代市立博物館未来の森ミュージアムで開催中。12月4日まで開催されています。昭和時代の県民の日常の暮らしが写真に記録されており、住民の暮らしから時代を見つめることのできる貴重な写真がたくさん展示されています。



昭和23年坂本町「お昼時」(『ただひたすら、撮り続けた 写真家・麦島勝の世界』より)

若い人が減る中、全国の農村は効率的な農業を求められるために、専業化と機械化が大きく進むことになりました。忙しくなったために郡築の農村では、農閑期を利用してすぐ近くの海や内水面(通称ダブ)で漁をしていた農家が急速に減りました。稲刈りが済む11月頃は、トボシと呼ばれるガス灯を使った夜の漁でナマコやタコを獲ったり、水が温む春はシャクやアサリなどをとるための潮干狩りなどはいづら農作業の合間の楽しい歳時だったと思います。郡築に農業用トラックが出現した頃は車体には〇〇農海産などと書いて水産業を兼業していることを現していたのを思い出します。考えてみると、自然の移ろいと共に人の暮らしがあったのですね。

私にもそういった経験があります。中学1年の時のことです。が、プラスチック部のある夏の日でした。当時は今と違って、のんびりしたクラブ活動だったのですが、夏休みの午後(のそばにある)で合宿することになりました。夕食のおコメは簡単に手に入りましたが、おかずがありません。先

輩の3年生たちは樋門の中の遊水地にシジミがいるのを知っていたらしく、私たちにシジミを獲らせたのです。すでに辺りは暗くなっていたのですが、足で探りながらたくさんシジミが取れました。シジミのたくさん入った味噌汁を食べたのを思い出します。

そのくらい豊かな自然だったことの証明ですが、アサリやカニやシャクは当たり前のようにいましたし、ウナギやフナもたくさんいました。はえ縄でウナギを獲って小づかいにしていた子供もいました。

今では、農海産と書いてあるトラックは目にしません。が、経済の成長の為に失ったものは沢山あります。その一例に、2年前まで続いていた八代海の養殖ノリは完全に途絶えました。最後の一人として頑張ってきた郡築のノリ漁師は、私の友人で大きな農家でもありました。私は彼を応援したくて下手な俳句を詠んだのが、「海苔竹を山と積みたる親子舟」。

【いそだ・こわし／農業、八代市】

天井裏の生活者

6

久馬 凌

「天井裏生活事件」は犯人に実刑判決が下ったことよつて終了した。その後、警察から、犯人があの家から盗んだ刃物など（証拠物）を返却された。そのとき、八代署鑑識係が捜査中に踏み抜いた天井板の修理費が問題になった。

捜査中の「事故」であるが、鑑識係が「過失」によつて破損したのであつた。犯人の自転車事件性がないとして八代署が無視したこともボクとしては気になつていた。住民の指摘を無視せず、自転車の所有者を確認していれば犯人は早期に特定できていた。自転車は窃盗物でなく、犯人の所有物で、福岡県警に届け出もだしていた。駐在所の警官の代わりに、ボクが天窓をのぞくことになつたこともボクには大きな不満であつた。腰痛だから脚立を利用できないというのが、その理由であつたが、それは被害者がする作

業ではない。そうしたボクの心情はしだいに増幅していき、おもいきつて、八代署に天井の修復費用の負担を求めることにボクを導いた。

担当刑事は負担できないと即座に返事した。優しいさのない事務的な回答であつた。ボクは、ますます、いらだつていったが、冷静に考えてみると、刑事の返事は不当ではない。捜査中に発生した費用をすべて警察が負担することになつたら、警察は思い切つた捜査はできなくなるし、捜査中の事故は緊急避難の事故のようにもみえる。それでは被害者が負担すべきことになるのか。それはないであろうと思つた。被害者にはなんの落ち度もない。それでは、どうすべきか。常識的には、犯人に負担させるべきという結論になる。しかし、犯人には経済的能力はなかつた。仮にあつ

たとしても、鑑識係の天井破損と犯人に天井裏生活の間に因果関係があるといえるのかという問題もある。犯人とはいえ、捜査中に発生した「事故」費用のすべてを負担すべき理由はない。

いろいろと考えたけれども天井を破損させたままにしておけないので、ボクの負担で天井を修理することにした。業者に依頼し、業者は短時間で天井は修復した。もちろん、事前に見積もりをとつていた。安くはないが高額ともいえない金額であつた。社会相場を確認しないまま業者の見積もりを丸呑みした形になつたけれども、別用も重なつていて、天井裏の修理に集中できる状況ではなかつた。

結局、見積額でよしとした。修復後に代金請求書が届いた。請求金額をみて驚いた。見積書の金額より極端に安かつたのである。ひどく金額がちがうので、その理由をたずねた。業者は、なかなか、理由を説明しなかつたが、小さな声で、鑑識係が内緒で費用を支払つたから大丈夫だと話してくれた。当初の捜査時に天窓の異常に気づかなかつたこと、鑑識専門であるとはいえ天井板を踏み抜いたことを重大なミスと考えていたようである。上司から「叱責」を受けてい

たフシもあつた。とにかく、その鑑識係が修理費用を負担してくれていた。

業者は、その鑑識係と親戚関係にあると話した。そうかもしれない。業者の名前を警察には伝えていなかった。鑑識係が仮に費用を負担する意思があつても、業者名が分からないのであれば、どうしようもない。修理費用は負担しないというのが八代署の公式見解である。その見解に反する行動はとれない。しかし、業者と鑑識係が親戚関係ならば、鑑識係が費用を負担したという話に無理は生じない。しかしながら、それが事実だとしたら、驚くべき偶然である。可能性がほとんどない偶然である。

鑑識係は若者であつた。若者に大きな出費をさせてしまい申し訳ない気持ちになつた。数ヶ月後、八代市内に数台のパトカーが止まつていた。例の鑑識係が作業していた。元氣そうであつた。それ以降、その鑑識係をみていない。

【ぎゅうま・すぐる／八代市】

上杉芳野の「あがっ段」⑦

私の師匠

私には4人の子供がいる。その中の長男が小さい頃は、私の右手の内側にあるホクロを触りながら寝るのが癖だった。そんな長男が

高校の修学旅行の土産に「芳野」と書かれた、私の名前入りの包丁を買って来てくれた。

「ありがとう」といったものの、その時はまだ包丁を買ってくれた意味も解らず、「包丁よか、饅頭がよかったのに」と心の中で思っていた。

でも、あれから25年たった今考える時、毎日、朝昼夜その包丁で料理しているのだ。長男の温かい思いやり

の心に感謝せずにはおれない。

たまに帰って来た息子にグチを言おうとすると、「そんならトイレに書いてあつとは、破つて捨てない」と怒つて言う。

確かにトイレに、「全て神様が見ています。堂々と胸を張って生きていきましよう」と書いて貼っているのだ。息子は、お母さんはこうやっていろんな事を乗り越えているんだなあと、安心していたのかもしれない。

だから、私が弱音を吐かない様に叱ってくれたのだろう。「解った！ もう小言は言わんけんね」と心の中でつ

ぶやいた。

実は、私の長女は生まれて27日で他界した。脊髄に穴が空いていたのだ。生きていたらきつと車イスの状態だっただろう。だから体の不自由な人たちを見ると人ごととは思えず、つい手助けしてしまう。この手で抱いてやる事も、お乳を飲ませてあげることもできず、可哀想な事をしてしまった。

次女は生まれた直ぐから「親孝行な子供さんですね。夕方5時から時間外なので1万円、お産料金が高かったんです。お産が楽で良かったですねえ」と産婦人科からほめられた。私

思います」と。

三女はいう。

「お母さん、悲しい時や苦しい時ほど、笑顔に変えてボランティアせんばん。こんな時にいろんな人からオファー（依頼）が来るのは、神様がお母さんの気持ちにまぎらわすために、当てごうてやいよつやとだけん、受けてして行かんばんとばい」と言ってくれる。

子供達に教えられながら、母親業を務めている。

やっぱり、私の人生の師匠は4人の子供達である。

【うえすぎ・よしの／球磨郡の元気応援団長。あさぎり町上】



孫の昇永を抱く大志（長男）と嫁の郁子。初節句の時五月人形は剣道の防具でした



長女の望と三女の夢都日

山に行こうよ! その③

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

石楠越 ～南山犬切 七遍巡りへ

2016年9月16日(金)

天候: 晴れ

参加者: 7名

今日は久しぶりに天気が良い。6時人吉土地改良区に集合。新会員の潮谷よう子さんが今日から参加されたので自己紹介してから出発。7時45分、登山口着。今回はトンネル口重山口から500m先の登山口より登る。もうここは1300mで涼しくてちよつと肌寒いくらいだ。

8時、登山開始。急登の杉林



トリカブトの群生の中で

か。すがすがしい林の中、ふわふわの苔、毒キノコ、ホオノキの実、大木の不思議な姿、ドリーネなどの写真を撮りながら予定

を過ぎ沢を2カ所越えたと石楠越しに着く。8時40分。ここからは尾根を歩く。大木が数多くなぎ倒されている。台風だろう

よりすっかり遅れてしまった。南山犬切、10時30分着。ここで50分の遅れだが今日はトリカブトの群生が目的なのでそれに出会えばそこで打ち止めにしようということになった。

七遍巡り、10時50分。そこから100mほど下った鞍部の斜面にトリカブトの群生があつた。感激の一瞬だった。これほどの群生は初めて見た。残念ながら花には少し遅かった。

写真を撮り昼食にした。山犬切峠(林道出合)にも群生があるということで足を伸ばしたが、大半は枯れていた。13時、下山。長い長い下山の道だった。15時30分、駐車場着。人吉に17時に着いた。車運転の善昭さん、梅木さん本当にお疲れ様でした。

【段村東亜】

くまがわの神さん仏さん ⑥

金比羅宮に行かんばんよ

宮原信晃

国宝青井阿蘇神社の真ん前を球

磨川へ向かって3分歩くと「金比羅宮」にぶつかる。近所では「だんだん」といって、今も昔も子供たちの遊び場である。



江戸の時代には、お殿様が参勤交代に出発する前に青井神社に参拝し、この場所から球磨川の川船に

乗ったのだろう。

故渋谷敦先生の名著「なば山騷動異聞」の冒頭にも出てくる場所。

「朱塗りの門前橋を渡ると、球磨川の川風が小鬘にあたり、どこからか桜吹雪が舞ってくる」。

「東の市房山に昇る朝陽を合図に、先頭の役人が手をあげて、御座船は動き出し、すぐに急流に乗った。どの船もこれに倣って次々に動き出す。長い難儀の参勤の旅路はこうして始まった」とここに立ったものしかわからぬ、風景や川風を描いて頂いた。

この建物は、昭和38年に国民宿舎よりここに移転されてはいるが、江戸は天保3年(1832年)の石鳥居は昭和46年に青井社境内から移転。元々、境内稲荷社の鳥居である、溝下昌美さんが書かれた球磨の鳥居という著書に記載してあつた。選りすぐりの、人吉球磨の宝である。

月次祭りは、毎月10日にあり、人吉の観光にかかわる方々、球磨川下りなど、水の恩恵、川下りの安全運行を祈願され、青井さんの神主さんや皆さんがお詣りされています。

尚、私の家は、すぐそこ。お茶でも飲みにおこしくださいませ。

【みやはら・のぶあき/人吉おおくま座の会事務局長】



真冬の天然アオノリ採捕風景

やカロチンを多く含んでいるが、アオサはカリウムやマグネシウムを多く

含んでいる。春先に店頭に並ぶと、つい手がでてしまうアオサにはアオノリとはまた別の美味しさがある。

アオノリ漁

球磨川の河口で、漁業として採捕されているのは、アオノリの方である。日本で確認されているアオノリは現在7種と言われているが、食料として利用されているのは、スジアオノリ、ボウアオノリ、ヒラアオノリの3種であり、球磨川でもこの3種を確認することができ。主に商品として採捕・養殖されているのはスジアオノリであり、一番品質がい

い。たまに、スジアオノリが不足して他のアオノリを混ぜて売られていることもあるようだが、素人にはおそろく区別はできない。

八代のアオノリ養殖は、養殖といっても、種付けは天然採苗である。今ぐらいの時期、アオノリが生え始めた川底の石の上に網を2〜4週間ほど置いて、種付けをする。網が緑になったところに、養殖場に移動して水面から50〜60cm程のところに吊り下げる。1mぐらいになったところに、根元を30cm程残して摘み取ると、また、ぐんぐん成長して、数日もするとまた摘み取れるほどの長さになる。

一方、川底の石の上で成長した天然のアオノリ採捕には、胴長を着用し直接水の中に入って、長い鉤棒で採捕する人と、舟の上から更に長い鉤

不知火海の自然・生活

(3)

アオノリ

自然観察指導員熊本県連絡会会長 つる 詳子

球磨川にまたアオノリ漁の季節がやってきた。今年は、もう養殖ノリの種付けが始まっている。球磨川河口で行われているアオノリ漁は、二通りである。一つは、長い棒の先に鉤爪のようなものをとりつけたもので石の上に自然に生えたアオノリをひっかけて採る方法で、主に内水面漁協（球磨川漁協）の組合員さんたちが行っている。もう一つは、種付けをした網を水面下に張って成長させる養殖である。主に海面漁協（八代漁協）の組合員さんが行っている。今回はそのアオノリを紹介したい。

アオノリとアオサ

焼きそばやたこ焼きの上には必ずと言っていいぐらい、粉にしたアオノリがふり掛けられているので、アオノ

リを知らないとか食べたことがないという人はいないと思う。しかし、アオサと一緒に思っている人は結構いる。また、たこ焼きや焼きそばにかけられているのが、アオノリなのかアオサなのか区別ができない人も結構いるかもしれない。

アオノリもアオサのどちらともアオサ科の緑藻であるというのは共通している。アオノリは、アオサ科アオノリ属で、細い糸状であり、アオサはアオサ科アオサ属で平べったい葉っぱが広がったような形をしている。そのため、粉にした時に、アオサの方が、平べったい感じがする。何より香りが違い、アオノリの方が格段に風味がいい。そのため値段にも開きがあるが、味や栄養的にアオサが劣っているというわけではない。アオノリはビタミン

棒で採る人がいる。前者は、冷たく危険も伴うが、アオノリの根元がよく見えるので効率がいい。舟からの採捕は、棒が長いので結構力があるようで、遠くから見ても、一度の採捕量は少ない。腕のいい漁業者は、一本の鉤爪がついた棒で、アオノリの根元近くを上手にかぎとって採捕するので、そこからまたアオノリが伸びてくるが、中には、ガンヅメやヤツデの



養殖アオノリの採捕

ように鉤が3本も8本もついた鉤棒で、川底の石をひっくり返すように採捕するものがあり、その後アオノリの成長ができないという。規制を求める声もあったので、もう規制されているかもしれない。

採捕したアオノリをきれいに洗い、天日に干したり、機械乾燥させて商品にする。養殖ノリと天然ノリは細さも、味や食感も違うが、球磨



乾燥させたスジアオノリ。球磨川のは緑が濃く、香りが高い

川のアオノリは緑が濃いのが特徴で、味もよく、評判がいい。好みの問題もあると思うが、私は天日干しの天然のアオノリが好きである。

アオノリの生育環境

アオノリの生育は、気温 水温 塩分濃度に左右される。気温が20度ぐらいになると生え始め、採苗も始まるが生育はそれより冷たい方がいいが、10度を下回ると成長は鈍る。また、藻類は光合成で成長するため、何より川の透明度が要求される。塩分濃度も12〜26%と適度な濃度であることが重要であるために、大雨が降ったり、ダムの放流で淡水が一気に流れ込むと、濃度が下がり、アオノリに影響

響を与える。淡水は海水より軽く、表層を流れるために、養殖の網を急いで下げなければならぬが、対応が間に合わない時は一気に流されてしまうのである。また、天然のアオノリは川底の石に生えているために、濁りが続くと光合成ができなくなり、腐ったように枯れてしまふし、泥の堆積も成長を阻害する。

ここ数年、アオノリの生育状態、特に天然のアオノリの成長は格段に良くなっている。荒瀬ダム撤去の効果であることは明白である。平成14年に荒瀬ダム撤去が決定し、護岸の補修やダム湖の堆積土砂除去のために冬季2か月間、荒瀬ダムと瀬戸石ダムのゲートが全開されるようになった。平成14年初めてゲートが開けられた時は、二つのダム湖の水と土砂が

一気に吐き出され、河口のアオノリはほぼ全滅した。しかし、あらかた土砂が放出され、上流から流入した水がそのまま下流に届くようになると、水は澄み太陽の光が川底まで届き、アオノリはぐんぐん成長し、それまで30cm程にしか成長しなかった天然のアオノリは、1.5mにも2mにもなり、採捕者をびっくりさせた。一昨年、プロの水中カメラマンに潜ってもらってアオノリの写真を撮ってもらったが、なんと4〜5mに成長していると言われ、自然の力に改めて驚かされた。

アオノリが抱える問題

生育環境の改善でアオノリの生産量があがったことだろうと思われるかもしれないが、自然はそう甘くない。

い。ここ数年横ばいだったり、不漁だつたりを繰り返している。一つには温暖化のせい、アオノリの採捕開始時期が段々遅くなり、10年前は12月初めだったものが、今は1月中旬から2月初めと遅くなっている。そのために採捕期間が半分もないこともある。昨年は採れはじめが遅かった上に、2月に大雨が降り、そのまま終了してしまった。

もう一つの問題は、カモ、特にオオバン飛来数の増加である。アオノリが早い時期から成長していた時は、その後でバンが来ても、彼らの採餌量はそう影響を与えなかったが、昨年みたいにアオノリの成長時期が遅い時は、バンの飛来時期が重なり、伸びだしたばかりの短いアオノリは片っ端から食べられてしまった。

自然任せの天然ノリだけでは、生業にならないために、内水面漁協でも去年から養殖が試みられている。内水面漁協の養殖場は、海面漁協のものより川の上流にあり、塩分濃度も違うために、去年は試行錯誤が繰



熱々ご飯との相性は抜群! アオノリとシラスかけご飯(上)とアオノリと生卵ご飯(下)

り返されていたが、今年から本格的な養殖が始まりそうである。

ともかくも、アオノリは待ち遠しい季節の味である。あの袋を開けた時の香りはなんとも言えない。短く



切つて、そのまま熱々ご飯の上に乗せるとさらに香りが増し、食欲が出る。2〜3cmに切ったアオノリとシラスを同量ぐらいサクッと混ぜ、醤油を数滴垂らして、熱々ご飯と一緒に食べるのもお勧めである。手でちぎるのではなく、ハサミでカットするのがより美味しく頂くコツである。また、短く切つて天ぷら粉に混ぜると、海の魚介類の天ぷらの味は別格である。その他、味噌汁や定番の焼きそばなど、毎日アオノリを食べない日はない。……………そういう時期の到来を今か今かと待っている。

【つる・しょうこ／八代市】

10月26日、総務省は国勢調査

(2015年10月1日時点)の結果を発表した。5年前の前回調査に比べ約96万2067人少ない1億2709万4745人であった(外国人を含む)。すべての地域で人口が減少したわけではない。東京・神奈川・千葉・埼玉・愛知・福岡・沖縄では人口は増えている。熊本県は17パーセント減であった。調査結果はさまざまな視点で説明できる。

熊日新聞は、衆院議員定数に注目し熊本県の衆院議員が「1減」になること、比例九州も「1減」になることを強調する記事を掲載した。人口問題を実感できる例として意識的に議員定数問題を選出したのであろう。早ければ、次回衆院選の状況は一変する、だから確かに、分か

国勢調査の結果

城来松男

りやすい例である。熊本で減った議員数は東京などの首都圏に配分されて首都圏の衆院議員数は増加する。人口数に比例して議員数を配分する方法は地方軽視につながるとの意見があるけれども、どの政党もその意見を支持していない。憲法第41条が国会を「国権の最高機関」で定

いう問題の一面を指摘するもので、総人口の縮小という今回の国勢調査の核心を論じたものではない。高齢化と少子化が絶対的に進行し人口の年齢別構造が極端に歪になっている点に問題の本質は存在する。熊日はもちろんそのことを前提にしたうえで議員定数問題に焦点をあてて

いるにすぎないのであつて、少子・高齢化と人口の都市集中の同時進行が現在の最大の課題であることを十分に認識していることは承知のとおりである。

両者の同時進行という現状にどのような対応すべきか。さまざまな提案がなされているけれども、解決の方向にむかつてはいない。このままでは「国破れて山河あり」のまゑに「子ども生れずして山河あり」になる。

【しらき・まつお／八代市】

人吉市矢黒・戸越コースのフットパス募集があり、「矢黒の切り通し」をまだ通ったことがなかったので、一度行ってみたいと思い申し込んだ。

当日は西瀬コミセンに集合し、簡単な準備運動をして出発。最初は矢黒神社であったが千二百年前の建立だと知り、青井さんにもひけを取らない立派な神社で、人吉球磨特有の覆屋形式である。くまがわ春秋九月号に怖いところと書いてあつて、

五百六十余年前にの桑原一族の乱では二百七十人が切腹、討ち取られたそう、一人で行ったことはないが、少々不気味である。

次は矢黒地藏堂。ここは毎日の散歩コースにしているが、なんとお堂の下屋には石の地藏さんがあり、腹掛

けを何枚もしておられるのをめくって説明された。いわゆる石わり地藏でないかとのことであつた。昔々、病氣になつた時にお地藏さんの石をくだいて薬のかわりに使つたかもしれないのだそう。

そば畑を見て花が美しかったが、

も何かに活用されたのだろうか、両側に岩タバコがびつしり生えていて、花は終わつていたが種子ができていた。余り宣伝されると盗掘される心配があるが、今は大丈夫のようである。

心する。

楽しかったフットパス

武井京子

八月に播種してもう九月末に花が咲くというので成長の早さに驚く。

国道を横切つて切り通しに行く。

砂岩なのか岩を削つて作つた道で、馬

車を通れる幅がある。高いところは六、七メートルもある。岩を人力で削つて作つた努力には頭が下がる。岩

皆様のおもてなしでおいしく食事をいただいた。材料も地産、朝早くから作られたらしく大変心のこもつたものであつた。

ヒマワリの土産をかかえて秋の彼岸の中日を楽しんだ。

【たけい・きょうこ／人吉市】

ツクールバス



芦北町は、児童・生徒が利用するスクールバスを、地域住民も利用できないかと検討したのち、両者とも利用できる「ツクールバス」を平成23年に導入した。「ツクールバス」の「ツ」は、ワン・ツ・スリーの「ツ」だ。スクールバスに地域住民の利用が追加されたというほどの意味である。

正式名称は「ふれあいツクールバス」。

簡単に導入できそうにみえるけれども、一自治体内とはいえ、縦割り行政の思考からは出てこない柔軟な発想がなければ生まれない制度で、同町が全国ではじめて採用した。現



在、7路線で運用されており乗車は無料。

ただし、一般住民が自由に利用でき

るわけではない。利用したいものはあらかじめ、町長（町役場）に利用申請書を提出し、許可証の交付を受けなければならぬ。利用時には、許可証を提示することになっている。

児童・生徒の乗車優先で、混雑時には住民は許可証をもついても利用できない。路線の一部のバス停は、事前に役所に連絡して利用すると伝えなければ、バスはそのバス停まで運行

されない。たとえば白石駅前バス停を利用したいときには、許可証をもっているだけでなく、乗車すると伝えなければ利用できない。観光客が白石駅で下車し「ツクールバス」を利用しようとしても、許可証をもたないだけで乗車できないし、連絡しなければバスは白石駅に停車することもない。あくまでも、ツクールバスは「スクールバス」を前提にしているのだ。住民はツクールバスを歓迎して

芦北町スクールバスの住民利用のお知らせ

6月1日（火）よりスクールバスを混乗方式でモデル運行します

現在の民間バス路線（白石線）が本年5月をもって廃止されることから、6月1日から町独自でスクールバスでの一般混乗バスを運行します。佐敷中と佐敷小学校の2箇のスクールバスに、町民の方も乗車できるようになります。児童・生徒を見守りながら、ぜひご利用ください。

料金は無料です

本年1月から4月にかけて上記モデル路線の沿線住民に対し運行説明会やアンケート調査を開催しており、説明会でのご意見・ご要望は実施の参考にさせていただいております。

主な対象沿線地域 白石、藤瀬、市居原、吉尾、大岩、立川、大尼田、松生、宮浦、諏訪、花岡地区など

◆運行計画

「芦北町ふれあいツクールバス」運行時刻表					
午前			午後		
一般専用便（第2便）			一般専用便		
			月曜日のみ		
			和田口方面行		
↑	和田口方面行	芦北町役場行	和田口方面行	芦北町役場行	
	(11:04)	(11:05)	(14:04)	(14:05)	
	(11:01)	(11:08)	(14:01)	(14:08)	
	(11:00)	(11:09)	(14:00)	(14:09)	
	(10:59)	(11:09)	(13:59)	(14:09)	
			電話連絡対応区間		
			(10:58)	(11:10)	(14:10)



利用しようとしても、許可証をもたないだけで乗車できないし、連絡しなければバスは白石駅に停車することもない。あくまでも、ツクールバスは「スクールバス」を前提にしているのだ。住民はツクールバスを歓迎して

一度は行ってみよう光徳寺

彦一のお墓がある。

光徳寺の敷地内には、彦一のお墓がある。お墓があるなら、彦一は本当に実在したということなる。そして実際にこのお寺のすぐ近くに彦一は住んでいたらしい。あの彦一が住んでいた？ 本当か？

それを知っただけで嬉しくなってお寺の周辺を歩きまわってしまった。しかし、彦一は民話の世界の人物だ。民話の彦一はトンチ話の彦一とはちがうだろう。モデルになった彦一、お墓の彦一が実在したとしても、その彦一

は民話の彦一とは同じではない。それどころか、民話の彦一は実際にいたとしたら大変である。そうであれば、天狗もいなければならなくなる。それに、お寺がわざと嘘をつくはずはないけれども、お寺だって誤解することはあるだろう。別人を彦一と間違えた可能性もないわけではない。このあたり、編集子は疑い深いのである。嫌なこと、嫌なことを重ねることにそうやってきた。子どもの率直さを失っている。こういう性格はダメだな。しかし、ここは慎重にいこう。疑うことは慎重に判断することにほかならない。

（編集部）

民話の彦一が本当にいたかは別に、このお寺に彦一（彦市）のお墓があるのは確かだ。いや、存在したとすべきか。小さな石ころを置いただけの彦一のお墓はあつたけれども、



① 彦一のお墓があったとされる場所。17代住職の時代までは小さな石があったが、今はない

代住職の時代に、子どもが遊んでい
るうちに小石はなくなってしまうた
というのだ（写真①）。本当か？ もし
そうならば、じつに惜しい。しかし、
彦一らしいといえば、彦一らしい話で
はある。お寺の過去帳には、安永3
年（1774年）のところに「出町
彦市祖母」、同5年（1776年）に
「出町彦市娘」、天明3年（1783
年）に「出町彦市娘」の記載が残つて
いるという。明治のはじめころまで彦
市の孫娘がたびたび墓参りにきたと
いう（写真②）。



② 彦一の墓跡であるとの説明がある

彦一の墓はなくなつたけれども、近
くに、八代民話研究会が設立した「彦
一塚」がある。（写真③）

井桜屋勘七のお墓がある。

井桜屋勘七？ なんとなく、かつこ
いい名前だ。いったい誰だろう。調べ
てみると、妙見祭りの獅子舞の創始
者であった。その勘七のお墓も光徳
寺にある（写真④）。勘七は中島町の
豪商で、船を使って商いをしていた。
長崎もそのひとつだった。勘七は、長



③ 彦一塚

崎諏訪神社の例大祭「おくんち」の
羅漢獅子をみて、素晴らしいと感じ、
八代妙見祭に奉納したいと考え、工
夫を重ねたあと元禄4年（1691
年）に妙見宮に奉納したのであった。
歴史に「もし」は禁物だが、勘七が
仮にしなければ妙見祭の獅子舞は生
まれなかったかもしれない、神幸行列の
ユネスコ登録も道遠しだったかもしれ
ない。勘七はまさに妙見祭りの大恩
人だ。

勘七の獅子舞は、妙見宮に奉納さ
れただけでなく、宇土に伝播した。宇
土獅子舞は、元文5年（1740
年）、細川宇土支藩第六代細川
興文が「心願成就」のため西岡
神社に獅子舞の奉納を思いたつ
たことにはじまるが、そのとき、
八代の「獅子家元」・井桜屋勘

七の獅子頭を取り入れたという。そ
れはいいのだが、「獅子家元」はどう
いう意味か。勘七は獅子舞の「家元」
になつたのであろうか。そのあたりの
ことは調べていない。甚七は「豪商」だつ
たというけれども、その商いの状況も
知らない。編集子は歴史が苦手だか
ら仕方ないけど、歴史を得意にする
人にはぜひ調べて欲しい。

勘七は中島町で商売をしていたけ
れども、彼の墓は光徳寺（八代市出町）



④ 井桜屋甚七の墓

明治10年（1877
年）、西南戦争が勃
発。西郷軍本体は鹿
児島から人吉に入り川
舟で球磨川を下り八代
に上陸。そして熊本に
向かった。若者のなか
には西郷隆盛が球磨川

にある。その理由は、なんとなく分
かる。光徳寺は名和家に由来し、そ
の寺紋は名和家の家紋の「帆掛け船」
だ。海をまたいで商いをした人物にふ
さわしいお寺だ。
「帆掛け船」の家紋（寺紋）、それ
を見られるだけでも得した気分にな
れる（写真⑤）。

西南戦争で官軍本陣があった。



⑤ 帆掛け船の寺紋

薩摩軍は
順調に熊本
までいった。しかし、それから先に進
めなかった。熊本城は牢固で、政府
軍は福岡方面から南下し、薩摩軍の
進行を食い止めた。それだけでなく薩
摩軍を背後から衝くための「衝背軍」
を配置した。衝背軍が二見、日奈久
八代に上陸し、光徳寺を本陣にした。



瀬高城跡

戦国時代（相良八代支配時代）に山城があった。瀬高城という。城主は椎高安芸守と伝えられているが、安芸守が誰を指すのか、

天正年間、瀬高城は攻撃を受け落城した。攻撃者は不明で、島津軍・大友軍の可能性が指摘されている。どの方向から攻撃を受けたのか不明である。球磨川の下流からの攻撃であったのか、上流からの攻撃であったのか、それとも背後からの攻撃であったのか。そのいずれも可能性がある。要害の地はさまざまな交通の接点にほかならず、そのため守りやすい一方、どの方向からも攻撃を受ける危険がある。

鉄漿附岩

「鉄漿」は女性の「おはぐろ」をいう。歯を黒く染める、あの「おはぐろ」である。その「おはぐろ」にまつわる岩

が荒瀬ダム下流左岸約4キロ地点（瀬高地区）にある。

瀬高地区には、

現時点では分からない。

同城跡に登ってみると、いくつかの曲輪があつて、油谷・坂本・下代瀬・生名子などの各地区を一望できた。球磨川本流と支流の油谷川が交差する交通の要所を守っていたようにみえた。同城は相良長毎の隠居地であつた今泉地区につながっていて、球磨川河口からの攻撃に対処し、あるいは、他の地域の味方陣営へ容易に援軍をさしむける仕組みになっている。城跡はいまは私有地で、所有者の了承をえないと立ち入れないが、登ってみると、山城の形状や役割を肌で感じとれる。所有者に話をうかがったところ、何度か学生が調査に来ているようだが、その調査結果は報告されていない。



⑥ お寺前の通り（旧薩摩街道）

お寺を軍隊の本陣にする？ いまでは不思議にみえるけれども、そういう例はいくらでもある。広い敷地と建物があるだけでいいのだ。光徳寺は薩摩

街路沿いにあつて、衝背軍の本陣の場所として適地であつた。

八代城近くの薩摩街道であつたことから、光徳寺前の街路には鉄砲組の足軽たちの長屋が並んでいた。そのため、同寺前の街道は「鉄砲小路」と呼ばれていた（写真⑥）。

八代高校の創設地である。

寺小屋というけれども、八代高校は光徳寺から始まっている。明治29年（1896年）、済々黌八代分校が同寺に置かれたのであつた。つまり八代高校は済々黌の分校として出発したのであつた、熊本高校なども同様である。



【光徳寺】天正15年(1587年)、名和長年の子孫・明信の開基。当初、海士江にあつた（現・西雲寺）。その後、大村を経て、寛文元年（1661年）に現在地に移転。現在の堂宇は火災後の天保4年（1833年）に再建されたもの。浄土真宗大谷派。八代市出町。



鉄漿附岩（八代市坂本町瀬高地区）

本題に戻る。敵の攻撃を受け、女たちは城から逃れこの岩まで辿りついた。後方の瀬高城をみれば火の手につつまれ落城寸前であった。女たちは、これを見て、追っ手に捕らわれて恥ずかしめを受けるよりも、球磨川に身を沈め武門の面目をまっとうすると覚悟した。醜い姿を敵にさらして笑いものにならぬように、薄化粧し歯を染めて入水した。以降、その岩を「鉄漿附岩」と呼ぶようになったという。

伝承はそれだけである。敗北者の末路を伝える内容だが、日本の美学の色彩をおびているように感じる。たとえば、女たちは本当に薄化粧し歯を黒く染めたのであろうか。果たして、その余裕はあったのであろうかと思うのである。それは別として、「恥ずかしめ」は事実であつたろう。「大阪夏の陣屏風」は、女たちが男たちに恥辱されている様子を迫真に迫る筆致で描いていて、当時の戦がどれほどに残酷であつたかを理解できる。「屏風絵」をみるかぎり、女たちが自死を選択するのも当然にみえるし、瀬高城の女たちが自死を選んでも不思議ではない。この時代、一族郎党が集団で自死する例が多いが、それは敗北者に対する仕打ちの残酷性にその理由があつたのであろう。

鉄漿附岩の伝承は敗北したときの話だが、勝利の記念物も存在する。「鰐口」が典型例である。鰐口の「鰐」はサメのことで、鰐口はその形状がサメの口に似ていることに名前は由来する仏具の一種である。戦いで勝利したとき、戦利品として鰐口をもちかえっていた。そうした鰐口は球磨川流域に多数あるのであつて、それによって戦国大名としての相良の勢力を確認できる。

ところで瀬高城跡を中心に各地区のつながりをみると、瀬戸石地区（瀬戸石ダム近くの集落）から古麓城までを直線でつなぐ「山の道」が存在していることに気づく。球磨川を利用しても瀬戸石から古麓に行けるけれども、球磨川は蛇行しているので意外に遠い。大雨など川が氾濫しているときには川は利用できない。それに対して、陸路は安全で、かつ距離が短い。球磨川が「川の道」であるのに対して、それは「山の道」である。自動車社会の到来にともない整備された道を利用する場合がほとんどであるけれども、むかしは、山の道を利用していた。一見すると「山の道」は山越えもあつて利用したいようにおもう人もいるかもしれないが、じつさいには、そうではない。たとえば藤本小学校（現

在は、廃校になっている）の遠足先は日奈久であつた。同小学校を出発し葉木地区まで行き、舟で球磨川を渡り、鶴喰地区を経て日奈久にむかった。「道の駅坂本」を起点にすれば二つの山を越せば日奈久にいける。日奈久の行商人は山を越えて坂本に海の幸を売りにきていた。それは遠い過去の話ではない。昭和30年代まで現実に存在した風景である。

昭和6年に発行された花岡伊之作の『球磨川案内』には、「坂本の西十町 求磨川の左岸に瀬高と言ふ山間の一小部落がある 此部落に瀬高の城があつた天正年間大友氏が古麓の城主相良氏を敗り 瀬高の城に殺到した 突然の事として婦人は逃る隙がない 一同死出の嗜みに 鉄漿黒々と歯に染めて 求磨川の左岸に 斗立する岸頭より碧き深淵に身を躍らして死んだ 此事実にあやかりて 由来鉄漿付き岩と呼んでいる」と記されている。

また、松本管一は本誌連載「球磨川の駅・ものがたり⑥」（9月号）で、簸瀬地区や瀬高地区にも類似の伝承が残っていることを取り上げている。

お寺と戦争⑥

山本隆英

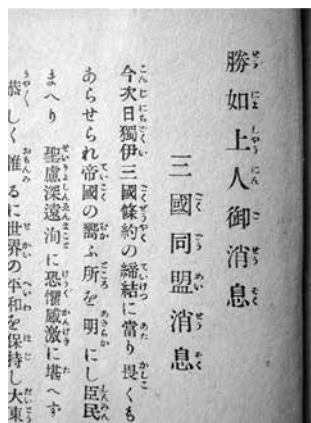
昭和十六年（一九四一年）その五

以前、述べさせてもらった内容に遡って「昭和十六年」の番号を附けて整理させていただく。

その一、ユーゲント旗（少年団の旗 五月号）

その二、大日本婦人会結成（愛国婦人会が大日本婦人会に吸収 六月号）

その三、本願寺報国団（七月号）



その四、紙芝居「江南の花」（十月号）
その五、勤行聖典（今月号）

「泥沼化」していく日中戦争を打開するため、軍の撤退ではなく戦線拡大の道を選び、学校教育も地域活動も戦争遂行に沿うあらゆる方策を進める中、本願寺教団もそれに沿った伝道活動を行う。前号の紙芝居もそうであるが、伝道活動で重要な聖典（お経の本）はどうであったか、昭和十六年発行の在家用勤行聖典を点検する。

『勤行聖典』（お経の本 昭和十六年九月発行）

ここで述べるお経の本は一般的に「在家勤行集」ともいい、家庭での勤行や寺院の法座で用いることを目的として編集されている。写真の本がそれで、体裁は一〇センチ×一四・五センチで七〇ページ。現在の聖典に比べると三分の二程度の広さで、製本は物資不足になりつつあったからか、時流に沿っていることを示すために作ったためなのか、表紙が本文とあまり変わらない

紙質のきやしゃなつくりである。この聖典に収録されているお経と仏教聖歌は現在と同じであるが、昭和十六年ならではの内容を拾い出してみた。

◆礼讃文（法座の始め等に唱和する文章） 現在は一編であるが、昭和十六年版には二編収められている。第一編は現在とほぼ同じであるが、第二編の「会衆合誦」（みんなで唱和する）には次の二行がある。「国家覆護の恩を仰ぎ、おのおの職業を励みて、国家の発展を資けん。」

◆仏教聖歌 現在の真宗宗歌など六曲収められているが、その中に現在では歌わない「四恩の歌」がある。四恩とは、国王 父母 衆生 仏法の四つであるが、歌詞の一番だけを紹介する。「天照す我が大君の 民草をいつくしみます 御恩の底ひも知らず うたはばや我等の幸を 尽くさばやわがすめらぎ（天皇）に」

◆信徒心得 現在の「浄土真宗の生活信条」にあたる「信徒心得」四項の掲載がある。その第三項は、礼讃文の「国家覆護の恩を仰ぎ、……」と同一である。

◆巻末に二通の消息 御消息とは、ご門主が重要な行事や節目等に発布する心構えや信心のあり方を表明する声明

文であるが、次に別項目で紹介する。

「御消息」

最近の御消息は新門主の「伝灯奉告法要についての消息」（現在のこの法要が営まれている）。前ご門主の「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要についての消息」等があるが、発布されるのは一二年に一回、ときには一年に二回の場合もある。一九三二年（昭和六年）満州事変から一九四五年敗戦までの十五年間に発布されたご消息及びそれに類するものは六〇余通（『念仏の響流史』による）という、平均一年に四通である。この聖典に収められた二通の御消息を部分抜粋で紹介する。

◆勝如上人御消息 三國同盟消息 「今次日独伊三国条

約の締結に当たり、畏くも優渥なる大詔を渙発あらせられ 帝国の向かう所を明らかにし臣民の進むべき道を示したまへり 聖慮深遠まことに恐懼感激に堪えず……時局の重大なるに鑑み益々国體の觀念を明徴にし 率先して新体制の国策に順応し以って皇謨翼賛……皇

恩に奉答せんことを期すべきなり。」

◆勝如上人御消息 殉国章

「凡ソ、皇国ニ生ヲ受ケシモノ誰カ天恩ニ欲セザラン……ヤガテ忠君ノ本義ニ相カナフベシ 殊ニ国家ノ事変ニ際シ進ンデ身命ヲ鋒鏑ニオトシ 一死君国ニ殉ゼンバ誠ニ義勇ノ極ミト謂フベシ 一家同族ノ人々ニハサコソ哀悼ノ悲シミ深カルベシト覺ユレドモ 畏クモ上聞ニ達シ代々ニ伝ハル忠節ノ誉レヲ喜ビ……真俗ニ誦ノ教旨ヲ実践シ天晴れ如実ノ行者トシテ国家忠良ノ臣民……」

◆殉国章」が弔辞に

この消息「殉国章」を熊本市西本願寺婦人会連盟は、十九センチ×五十二センチの巻紙に印刷し、県下の西本願寺派寺院に配布しようである。おそらくこれを戦死者葬儀の「弔辞」に利用することを期待したのだろう。どちらの消息も、今読んでみると胸がしめつけられる。

西本願寺の反省

西本願寺は一九八一年（昭和五十六年）九月十八日（満州事変勃発の日）、東京千鳥ヶ淵の「国立戦没者墓苑」で、

第一回全戦没者追悼法要を営んだ。このことを軸に、非戦平和の行動に動き出した感じだが、全体的な反省と行動はいずれ述べさせていたくことにし、今号は前記の「消息」についての本山の見解のみを紹介する。

宗令第二号

このたび、宗門が一九三二年（昭和六）から一九四五年（昭和二〇）にいたるまでの十五年間にわたる先の戦争に関して発布した、消息、直諭、親示、教示、教諭、垂示などは、今後これを依用しない。

二〇〇四年（平成十六）五月二十四日

門主 大谷 光 真

総長 不二川 公勝

以下 総務五名

【やまもと・りゅうえい／八代市坂本町、西福寺住職】

東京オリンピック⑧

新国立競技場

荻田吉富

2020年東京オリンピックの開会式と陸上及びサッカーの決勝戦が行われる新国立競技場の場所は、新宿区霞ヶ丘町と渋谷区千駄ヶ谷にまたがり明治神宮外苑に隣接しています。最寄駅は都営地下鉄大江戸線国立競技場駅、JR千駄ヶ谷駅および信濃町駅、東京メトロ銀座線外苑前駅です。

この新国立代々木競技場の前身となる明治神宮外苑競技場は、明治神宮の敷地内に大正13年に欧米式の公園とそれに伴う本格的な競技場を外苑整備と合わせ建設されました。

日中戦争の影響から日本政府が開催権を返上した1940年のオリンピックでは使われることもなく、1943年に「出陣学徒壮行会」が行われましたが、この愚行で失われた優秀な青年の損失は大きく、頭脳の空白地帯を生み、団塊の世代が就職した時にはできの悪い上司に悩まされたものです。

1957年、外苑競技場が取り壊され国立代々木競技場が建設され、1964年には東京オリンピックが開催されていますが、このオリンピックで活躍した女子バレーや体操の選

手達は戦争時、ひもじい思いをしただろう少年少女だった若者です。

2002年のFIFAワールドカップにおいては観客席の3分の2以上に屋根が架設されていなかったため候補から外されましたが、この頃の若者は第二次ベビーブームでした。

2020年東京オリンピックに出場するであろう若者は、今は15歳ぐらいで、競争社会のない第二次ベビーブームが発生しなかった、いわゆるバブルを知らない子供達です。

世界の誰よりも速く、高く、強くといった夢を、同世代の若者に見せ、無気力で、負けそう、消えてしまいうような彼らに笑顔を見せて、今を生きていく、その象徴が新国際競技場になるわけです。期日までに完成すればそれでいいのではないかと思います。

新国立競技場は敷地は明治神宮が所有しており都市計画の一環として建築されるため、秩父宮ラグビー場、神宮野球場と順次解体・建築されていきますが、新国立競技場の建築計画が白紙に戻るというアクシデントのため2019年のラグビーワールドカップに間に合わないことが分かり、またオリンピック開催中はヤクルトは神宮球場をフランチャイズとして使えなくなりすから、新潟が金沢に移転することも検討してはいるががでしうか。

【かりた・よしとむ／税理士・行政書士、東京都】

くまがわ英語塾

外来語から学ぶ英単語 (8) …… 藤原 宏

バー ・ バーテン(ダー) ・ バリヤ bar bartender barrier

ラテン語「barra (barra)、棒状のもの」からの派生語です。bar は普通は四角い横木のことで、丸い棒は「stick (スティック)、切り取った木の枝・棒切れ・杖・ステッキ」といいます。

bar は形状と用途の両方から意味が発展しました。形状がはつきりするものには、「a chocolate bar (板チョコレート)」「a bar gold (ゴールド、金の延べ棒)」「a cross bar (クロスバー、ゴールや高跳の横木)」などがあります。

「counter (カウンター)、勘定台・売り台」の横木からは、「bar (バー)、酒場」「snack (スナック) bar (簡易食堂)」へ、また法廷で一般席からの仕切りの横木からは、「弁護士 (界)」の意へ発展しました。

「bartender (バーテンダー)、酒類の調合などをする人」は bar と tender (世話人) の合成語です。バーテンはその省略形で和製です。

老人や身障者などのための「barrier905ffree (バリヤフリー)、障壁・段差のない」の barrier は元は「通行・出入りをはばむ柵・防壁」のことで、「a trade (トレード) barrier (貿易の障壁)」、「sex barriers (男女差別)」のように使われます。

(374)

鶺鴒短歌会

十月詠草

引返すことのできないかの時も花も咲いてた風も吹いてた
つむじ風右から左地に舞って庭の枯葉を舞い上げ何処かへ
守永 和久

腕あしをもがれし如き吾なれどパラリンピックは光となりぬ
今月も又赤字の予想湧き来れば増販廻りて一日暮れぬ
河内 徹夫

これ茹でてこれ餡にと栗分くる木犀の香のふつと漂う
秋立ちて天然アートの柿の葉を膳に一葉を添へて愉しむ
中村美喜子

難敵の四十匹の蜂を捕る日夜に亘る思案の末に
撲滅の蜂の反撃 恐ろしい不覚の驕り一刺し 賜ふ
西 武喜

観音道真つ赤に咲いた彼岸花極楽浄土の灯りの如く
父逝きて三十年の過ぎたれば五十忌を目標に生きむ
釜田 操

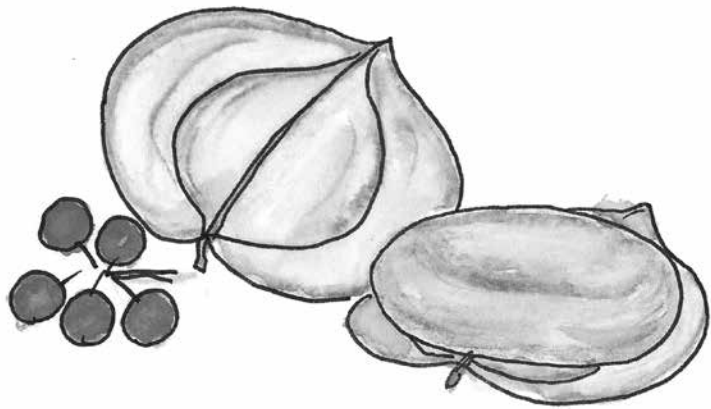
秋の夜は稽古のことが甦る独り身なれば寝付けぬ夜も
吾が郷は人も住いも変りたる変わらぬものは遠き山々
緒方 保正

久しぶり二か所に架かる虹を見る自然の力にしばし佇む
サル達も食べ物さがし 里にきて「ダイコン」かついで二足歩行に
中原 康子

おむすびで なやみ癒す人ありと突の計報に寂しき暮る
百名山テレビ見ながらわが心登っているよな清々しさを
三原 光代

歌の会先生来たれば盛り上がる言葉一つで吾が歌変わる
山歩き山芋掘りか猪か驚き見れば迷彩服が
橋詰 了一

金属の両の義足で疾走す パラリンピックに己が問はれり
残されし身体のもので泳ぎゆく選手の様心に心奪わる
堀田 英雄



まんじゅうん葉

昔しやオヤツてろん気の利いたもんな無かつたで、学校から戻つよま早よう「何んか無かなあ」て云えば「いつもん所けえ下がとつどが」て云わすもんで下がとる竹カゴンフタば開けてみれば、カライモやらケイモ（里芋）ば煮たとんひやつとつたで、カバンなうつちえてカライモば握つてあすびぎやいきおつた。

盆の近こうなれば「まんじゅうん葉（サルトリイバラ）ば採つてけえ『盆だご』ば作つて食わすつで」て云わんもんで、山さみゃいたてそん葉ば見つけおつた。まんじゅうん葉は、冬んなればつこけてしもうてあつか（赤い）実だけんなつとば、花ん代わりんしおいやいた。そん実のあこうなん前ん実は、ちつたしいか（酸っぱい）味んしてパシパシして食いがなつおつた。そん木にやイゲのたくしゃあつて他ん木に巻きちいとつとどまあ木ば引き寄せながら、なつだけ広か葉ば採らんばなんじやつたで、どこそこひつかかじつて血の染みたりしおつたばつてん、んまか盆だこん食わるつ方んぼうが良かった。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

流域情報

①瀬戸石ダムは11月15日より自然流下の措置をはじめ。降雨などの気象状況が関係するため確定的日時を特定できていないが、23日までに瀬戸石ダムのダム湖はなくなる。水の自然流下状況になったのちダム湖内の堆積土砂を除去する予定。



瀬戸石ダム



堆積土砂を除去するための仮橋

②熊本県企業局は、今年度、荒瀬ダム管理棟、藤本発電所などの解体工事に着手する。



荒瀬ダム管理棟



藤本発電所

③熊本県企業局によれば、鮎の遡上数は減少傾向にある。同様の傾向は九州の河川全体にみれる。原因については現在調査中である。

④熊本県企業局などはボートハウスの活用を検討しているが、結論はでない。



荒瀬ボートハウス



インフォメーション

開催中

- ▽秋季特別展覧会「写真家表島勝の世界」(12月4日、八代市立博物館未来の森ミュージアム)
- 11月13日(日)
 - ▽熊本地震復興祈願「第30回坂本ふるさとまつり」(グリーンパークさかもと)
 - ▽2016ゆのまえ漫画フェスタ(湯前まんが美術館一帯)
- 11月14日(月)
 - ▽三遊亭遊馬チャリティー独演会(人吉市イベントホールブリマベール)
- 11月17日(木)
 - ▽求麻郷土研11月例会「球磨村の文化財調査」(渡多目的集会施設集合)
- 11月19日(土)
 - ▽人吉市東西コミセン短期講座「歴史探訪ウォーキング」(同コミセン発着)
- ▽がんばろう熊本!第4回たらぎ農林商工祭(20日、多良木町多目的総合グラウンド)
- 11月20日(日)
 - ▽湯前町議会議員選挙
- ▽第34回やまえ産業振興まつり(山江村役場前広場)
- 11月22日(火)
 - ▽八代妙見祭神幸行事(23日、八代神社周辺)
- 11月23日(水)
 - ▽新嘗祭(青井阿蘇神社)
- 11月27日(日)
 - ▽装飾古墳一斉公開(人吉市・大村横穴群、錦町・京力峰横穴群)

匠の枝

御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)

・玉子かけご飯
・豆腐
・お刺身に

300ml 650円(税抜)

◆みそ煎餅
477円(税抜)

◆納豆みそ(お徳用)
300円(税抜)

◆納豆みそ
477円(税抜)

人吉散策コース 九州初蔵蔵めぐり

みそ・しょうゆ蔵

資 産 会 社
合 資 会 社
会 社
マ ル カ マ

釜 田 醸 造 所

会 長 釜 田 元 嘉 顕
社 長 釜 田 顕

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp

編集後記

今月号も発行が遅れてしまった。様々な事情があったとしても許されるべきではないが、少ないスツッフでの編集・制作とあつて平身低頭でお詫びする次第である。締め切り間際の出来事で衝撃的だったのは米大統領選の結果だった。おおかたの予想を裏切ったサイレント・マジョリテイ(物言わぬ多数派)の力は強かった。日本やこの地域にどのような変化があるのか気になるが、今後を見守るしかないだろう。★今月号は収穫と感謝祭というテーマで特集を組んだ。流域が育んだ農業や伝統行事を改めて考えてみるきっかけになればと掲載した。★今月も続報で「鶴之湯旅館」の営業再開の話題を取り上げた。本誌スタッフも再開前の試食会に参加し、同旅館の料理に舌鼓をうった。なお11月2日の正式な再開日には14名のお客さんが土山大典さんの料理を堪能したという。嬉しい限りだ。★もうすぐ、妙見祭。ユネスコ無形文化遺産への登録勧告もあつて、今年は大いに盛り上がることだろう。(ま)

〒868-0086
熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-222-76001



TAKEDA Eye Clinic

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア榎

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307